

米に関するマンスリーレポート

(平成25年9月6日公表)

【お知らせ】

※ 今号から、「IV 生産段階の動向」の「(1)平成25年産水稻の8月15日現在における作柄概況」を掲載します。

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあります。
2. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
3. 本資料に関する問い合わせ先

生産局農産部農産企画課
担当者：岩井、村松、川口
代表：03-3502-8111（内線4975）
ダイヤルイン：03-6738-8973
FAX：03-6738-8976

目 次

I	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成25年8月）	1
II	集出荷・卸段階の動向	
	（1）相対取引価格・数量	6
	① 相対取引価格（主な産地銘柄別、平成25年7月）	
	② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成24年産米）	
	③ 相対取引価格（年産別）	
	④ 相対取引数量（累積数量、主な産地銘柄別、平成25年7月）	
	（2）民間在庫の推移	9
	① 出荷段階	
	② 販売段階	
	（3）米の先物取引価格の推移	11
	（4）業者間取引の状況	12
	① 日本コメ市場（随時取引の結果）	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）	
	（5）(株)加工用米取引センターの取引結果	13
III	小売・消費段階の動向	
	（1）消費者物価指数の推移	14
	（2）小売物価統計の推移	15
	（3）小売価格の推移（POSデータ）	16
	（4）購入数量の推移（家計調査）	17
	（5）米の消費動向（米穀機構による調査）	18
IV	生産段階の動向	
	（1）平成25年産水稻の8月15日現在における作柄概況	21
	（2）国産米（水稻）の作況・収穫量	23
	（3）水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量及び10a当たり収量	24
	（4）加工用米及び新規需要米の取組状況	25
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	（5）水稻うるち玄米の検査結果	26
	① 検査数量及び等級比率（年産別）	
	② 水稻うるち玄米の1等比率の推移	
V	主食用米等の需給見通し（平成25年7月の米の基本指針）	27
VI	備蓄米及びMA米の動向	
	（1）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量	29
	① 25年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果	
	② 24年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果	
	③ 国内産備蓄米の売渡数量	
	④ 政府備蓄米の在庫の状況（平成25年6月末現在）	
	（2）MA米（一般・SBS）の動向	32
	① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	
	② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況（平成25年度）	
	③ SBS米の販売状況（平成24年度）	

I 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成25年8月)

〔○ 米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をDIとして算出したものである(詳細はP5)を参照。〕

1. 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

①主食用米の需給動向

(ア) 現状判断DI

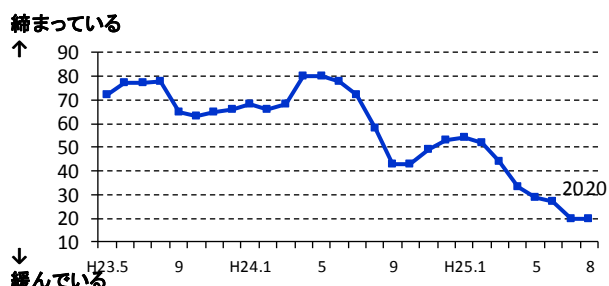
前月からの増減 ±0 (今月の数値 20)

(イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

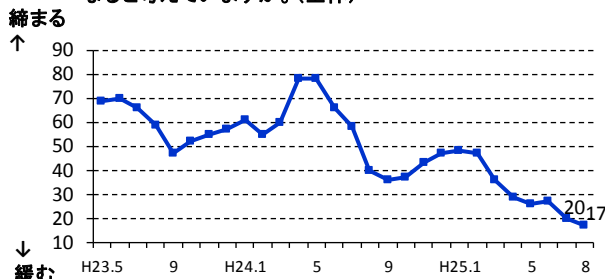
前月からの増減 -3 (今月の数値 17)

〔※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。〕

①-ア 国内の主食用米の“現在の需給動向”について、どう考えていますか。(全体)



①-イ 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の需給動向”について、どうなると考えていますか。(全体)



②主食用米の米価水準

(ア) 現状判断DI

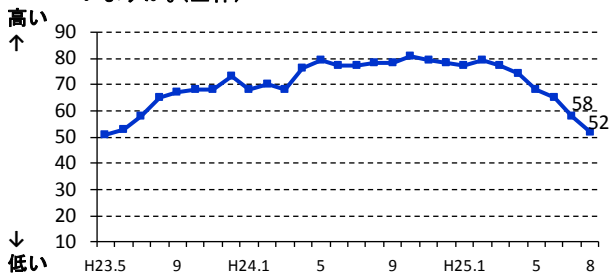
前月からの増減 -6 (今月の数値 52)

(イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

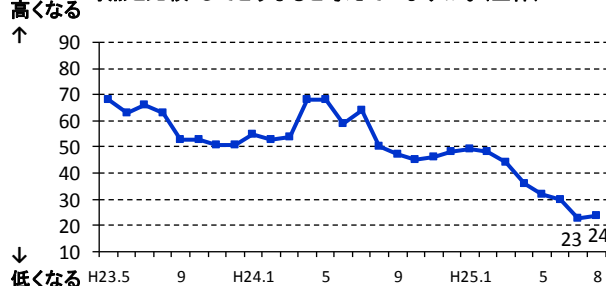
前月からの増減 +1 (今月の数値 24)

〔※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、米価水準が高い/米価水準が高くなるという見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、米価水準が低い/米価水準が低くなるという見方が前月より強くなった傾向を示す。〕

②-ア 国内の主食用米の“現在の米価水準”について、どう考えていますか。(全体)



②-イ 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。(全体)



③ 取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H24.9	30%	4%	0%	44%	11%	4%	6%
H24.10	20%	10%	3%	40%	19%	6%	2%
H24.11	11%	11%	3%	49%	16%	7%	3%
H24.12	9%	11%	2%	51%	17%	5%	5%
H25.1	6%	12%	5%	50%	19%	6%	3%
H25.2	2%	18%	5%	55%	10%	7%	4%

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H25.3	1%	20%	6%	47%	16%	6%	4%
H25.4	2%	20%	3%	46%	18%	7%	4%
H25.5	1%	28%	3%	48%	9%	9%	2%
H25.6	1%	32%	3%	46%	8%	10%	1%
H25.7	2%	36%	4%	39%	11%	6%	2%
H25.8	10%	39%	1%	37%	6%	5%	3%

2. 自社の取引状況に関する判断(業態毎)

①主食用米の販売数量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」/「(将来)増える」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「減った」/「(将来)減る」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の販売数量に関する現状判断 D I

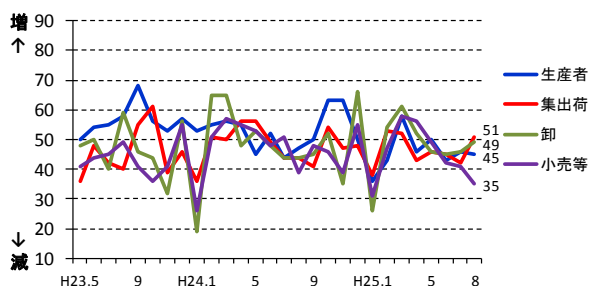
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	-1	(今月の数値	45)
集出荷：前月からの増減	+9	(今月の数値	51)
卸：前月からの増減	+3	(今月の数値	49)
小売等：前月からの増減	-6	(今月の数値	35)

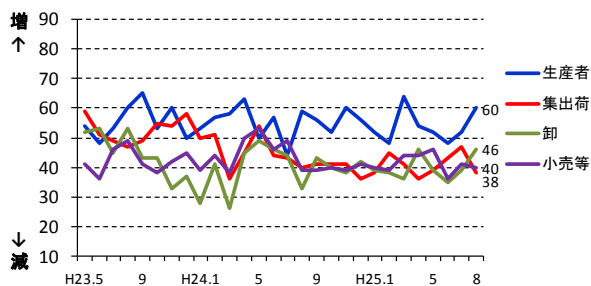
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+8	(今月の数値	60)
集出荷：前月からの増減	-9	(今月の数値	38)
卸：前月からの増減	+7	(今月の数値	46)
小売等：前月からの増減	-1	(今月の数値	40)

①-A-a 貴社の「今月」の主食用米の「販売数量」について、「先月と比較」するといかがですか。



①-A-b 貴社の「今月」の主食用米の「販売数量」について、「前年同月と比較」するといかがですか。



(イ) 来月の販売数量に関する見通し D I

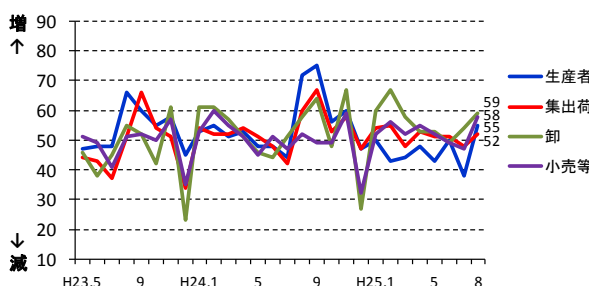
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+17	(今月の数値	55)
集出荷：前月からの増減	+4	(今月の数値	52)
卸：前月からの増減	+5	(今月の数値	59)
小売等：前月からの増減	+11	(今月の数値	58)

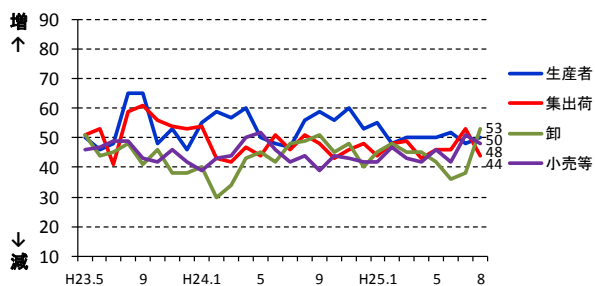
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+2	(今月の数値	50)
集出荷：前月からの増減	-9	(今月の数値	44)
卸：前月からの増減	+15	(今月の数値	53)
小売等：前月からの増減	-3	(今月の数値	48)

①-I-a 貴社の「来月」の主食用米の「販売数量」について、「今月と比較」してどうなると考えていますか。



①-I-b 貴社の「来月」の主食用米の「販売数量」について、「前年同月と比較」してどうなると考えていますか。



②主食用米の価格

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」/「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「低くなった」/「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の価格に関する現状判断 D I

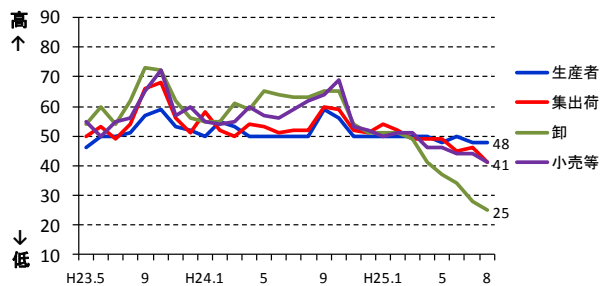
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	± 0	(今月の数値	4 8)
集出荷：前月からの増減	- 5	(今月の数値	4 1)
卸：前月からの増減	- 3	(今月の数値	2 5)
小売等：前月からの増減	- 3	(今月の数値	4 1)

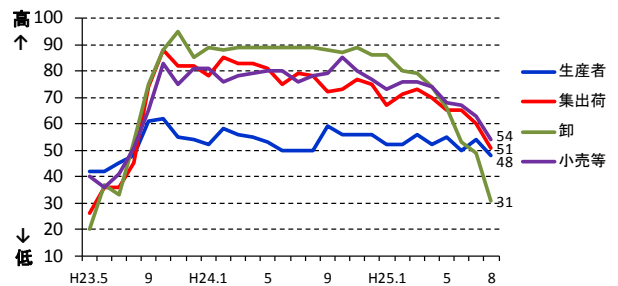
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	- 6	(今月の数値	4 8)
集出荷：前月からの増減	- 9	(今月の数値	5 1)
卸：前月からの増減	- 1 8	(今月の数値	3 1)
小売等：前月からの増減	- 9	(今月の数値	5 4)

②-A-a 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“先月と比較”するといかがですか。



②-A-b 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



(イ) 来月の価格に関する見通し D I

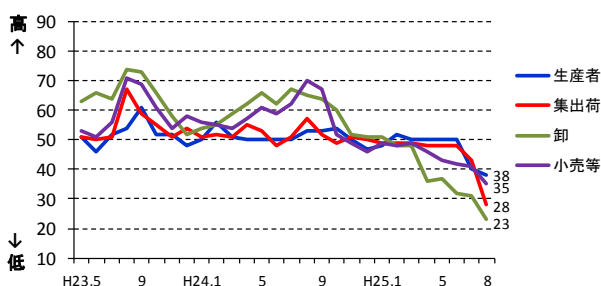
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	- 2	(今月の数値	3 8)
集出荷：前月からの増減	- 1 5	(今月の数値	2 8)
卸：前月からの増減	- 8	(今月の数値	2 3)
小売等：前月からの増減	- 6	(今月の数値	3 5)

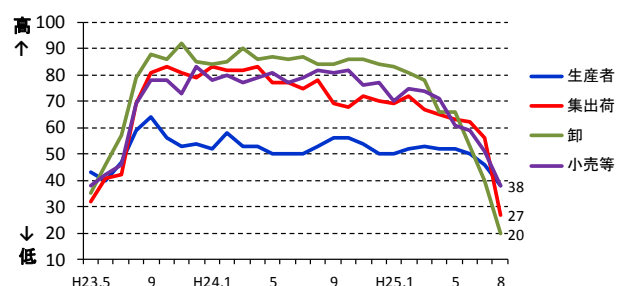
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	- 8	(今月の数値	3 8)
集出荷：前月からの増減	- 2 9	(今月の数値	2 7)
卸：前月からの増減	- 2 0	(今月の数値	2 0)
小売等：前月からの増減	- 1 3	(今月の数値	3 8)

②-I-a 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



②-I-b 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



③主食用米の在庫量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」/「(将来)多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「少なくなった」/「(将来)少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の在庫量に関する現状判断 D I

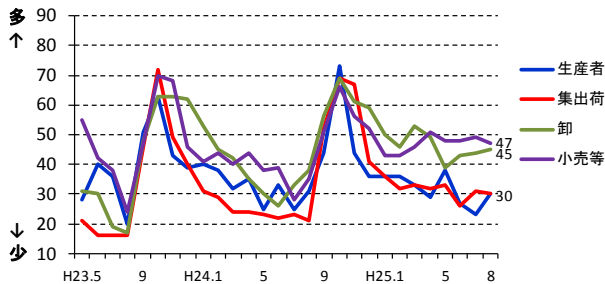
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+7	(今月の数値 30)
集出荷：前月からの増減	-1	(今月の数値 30)
卸：前月からの増減	+1	(今月の数値 45)
小売等：前月からの増減	-2	(今月の数値 47)

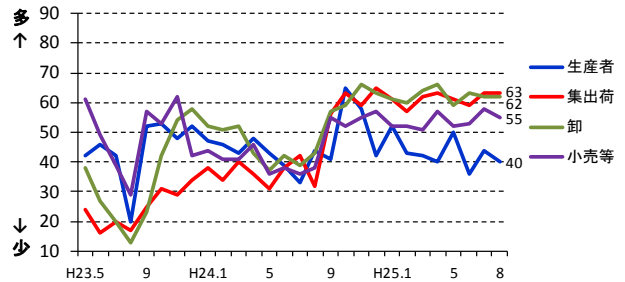
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	-4	(今月の数値 40)
集出荷：前月からの増減	±0	(今月の数値 63)
卸：前月からの増減	±0	(今月の数値 62)
小売等：前月からの増減	-3	(今月の数値 55)

③-ア-a 貴社の「今月」の主食用米の「在庫量」について、「先月と比較」するといかがですか。



③-ア-b 貴社の「今月」の主食用米の「在庫量」は、「前年同月と比較」するといかがですか。



(イ) 来月の在庫量に関する見通し D I

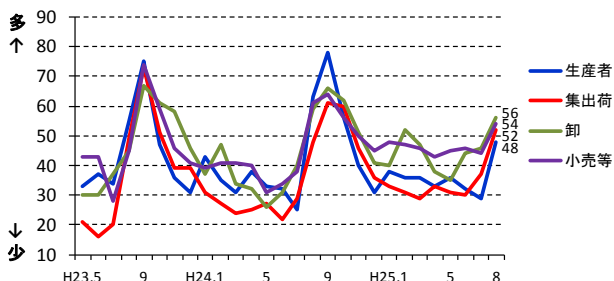
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+19	(今月の数値 48)
集出荷：前月からの増減	+15	(今月の数値 52)
卸：前月からの増減	+10	(今月の数値 56)
小売等：前月からの増減	+10	(今月の数値 54)

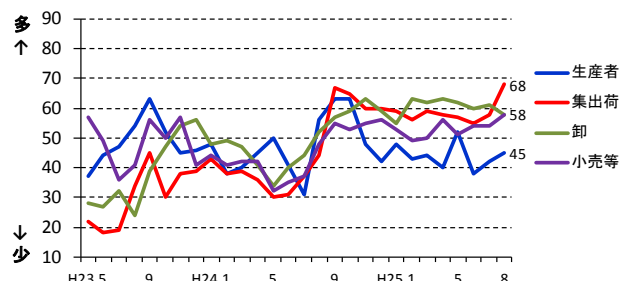
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+3	(今月の数値 45)
集出荷：前月からの増減	+10	(今月の数値 68)
卸：前月からの増減	-3	(今月の数値 58)
小売等：前月からの増減	+4	(今月の数値 58)

③-イ-a 貴社の「来月」の主食用米の「在庫量」について、「今月と比較」してどうなると考えていますか。



③-イ-b 貴社の「来月」の主食用米の「在庫量」について、「前年同月と比較」してどうなると考えていますか。



《アンケート方法等》

○調査期間：毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答

○調査方法：電子メールを利用したアンケート調査

○調査対象者：全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の152客体

○有効回答数：123客体

- 生産者・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 集出荷業者／団体・・・・・・・・・・30
- 卸売業者（主に主食用米）・・・・30
- 小売業者／中食・外食関係業者・・35
- その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

※「その他」は以下の業者を示している。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

○表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳は一致しないことがある。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じてDIを算出。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが算出されることに注意が必要である。

（DIの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

II 集出荷・卸段階の動向

(1) 相対取引価格・数量

① 相対取引価格(平成24年産米の主な産地銘柄別、平成25年7月)(速報)

(単位:円/玄米60kg)

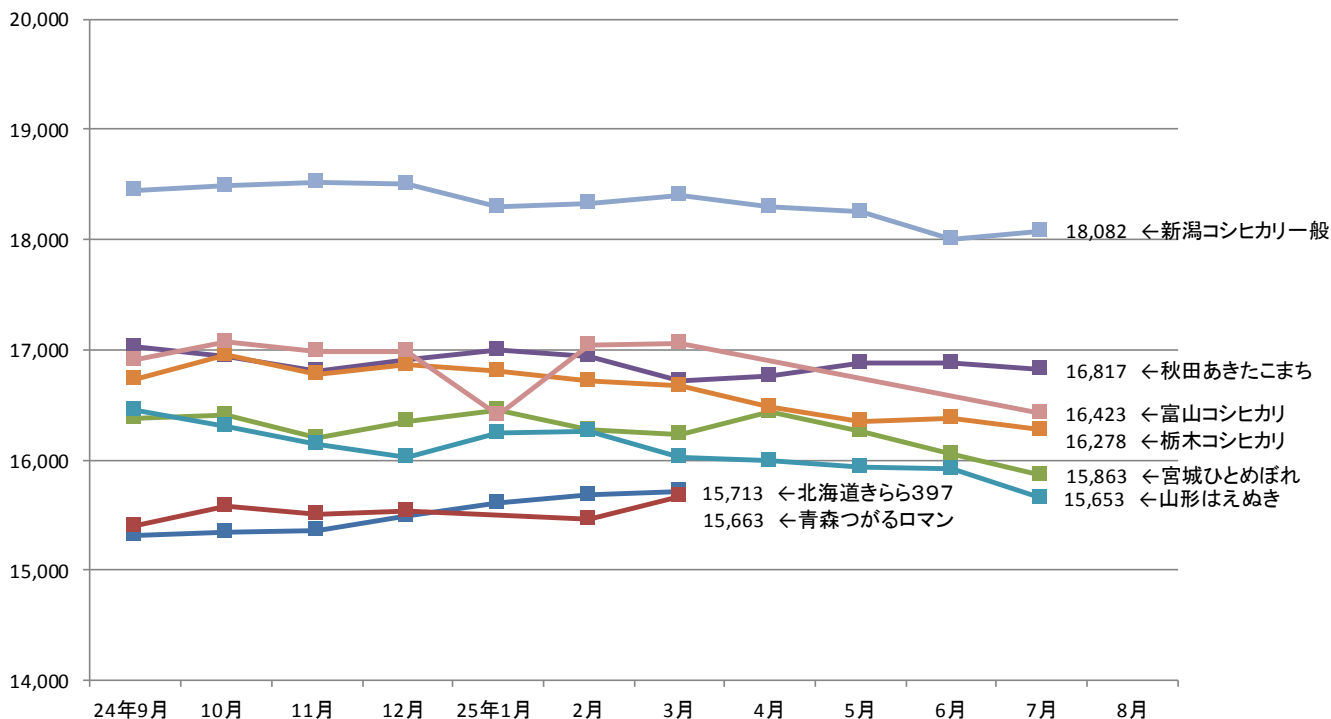
産地	品種銘柄 (地域区分)	25年7月 ①	【参考】			
			25年6月 ②	対前月比 ①/②	24年7月 (23年産) ③	対前年 同期比 ①/③
北海道	北海道 きらら397	—	—	—	—	—
	北海道 ななつぼし	—	—	—	—	—
東北	青森 つがるロマン	—	—	—	—	—
	青森 まっしぐら	14,879	14,983	(99%)	13,790	(108%)
	岩手 ひとめぼれ	—	15,878	—	14,629	—
	岩手 あきたこまち	—	—	—	—	—
	宮城 ひとめぼれ	15,863	16,056	(99%)	—	—
	宮城 ササニシキ	—	—	—	—	—
	秋田 あきたこまち	16,817	16,886	(100%)	15,423	(109%)
	山形 はえぬき	15,653	15,912	(98%)	14,416	(109%)
	福島 コシヒカリ	14,285	16,800	(85%)	—	—
	福島 コシヒカリ	14,288	15,859	(90%)	13,865	(103%)
関東・東山	福島 コシヒカリ	—	16,067	—	—	—
	福島 ひとめぼれ	14,254	15,775	(90%)	—	—
	茨城 コシヒカリ	16,504	16,314	(101%)	15,700	(105%)
	栃木 コシヒカリ	16,278	16,378	(99%)	15,405	(106%)
	埼玉 彩のかがやき	—	—	—	—	—
北陸	千葉 コシヒカリ	—	16,759	—	—	—
	長野 コシヒカリ	16,674	16,191	(103%)	—	—
	新潟 コシヒカリ	18,082	17,998	(100%)	—	—
	新潟 コシヒカリ	—	20,539	—	—	—
	新潟 コシヒカリ	—	18,636	—	—	—
	新潟 コシヒカリ	—	18,281	—	—	—
	富山 コシヒカリ	16,423	—	—	—	—
	石川 コシヒカリ	—	17,016	—	—	—
東海・近畿	福井 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	福井 ハナエチゼン	—	—	—	—	—
	三重 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	滋賀 コシヒカリ	—	—	—	—	—
中国・四国	滋賀 キヌヒカリ	—	—	—	—	—
	兵庫 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	鳥取 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	島根 コシヒカリ	—	17,340	—	—	—
	広島 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	山口 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	徳島 コシヒカリ	—	—	—	—	—
九州	香川 ヒノヒカリ	16,022	16,006	(100%)	14,916	(107%)
	高知 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	福岡 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
	佐賀 夢しずく	—	—	—	14,567	—
	熊本 ヒノヒカリ	—	16,891	—	15,134	—
	大分 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
宮崎 コシヒカリ	—	—	—	—	—	
鹿児島 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—	
全銘柄平均価格		16,148	16,293	(99.1%)	15,643	(103.2%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）の価格（運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。）であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。
- 2 また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等（栽培方法等）の価格調整が行われることがある。
- 3 産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち、23年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、月1,000トン以上の取引があったものである。
- 4 全銘柄平均価格は、報告対象産地銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。
- 5 24年7月は23年産の価格である。

② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成24年産米）

（単位：円/玄米60kg、税込）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

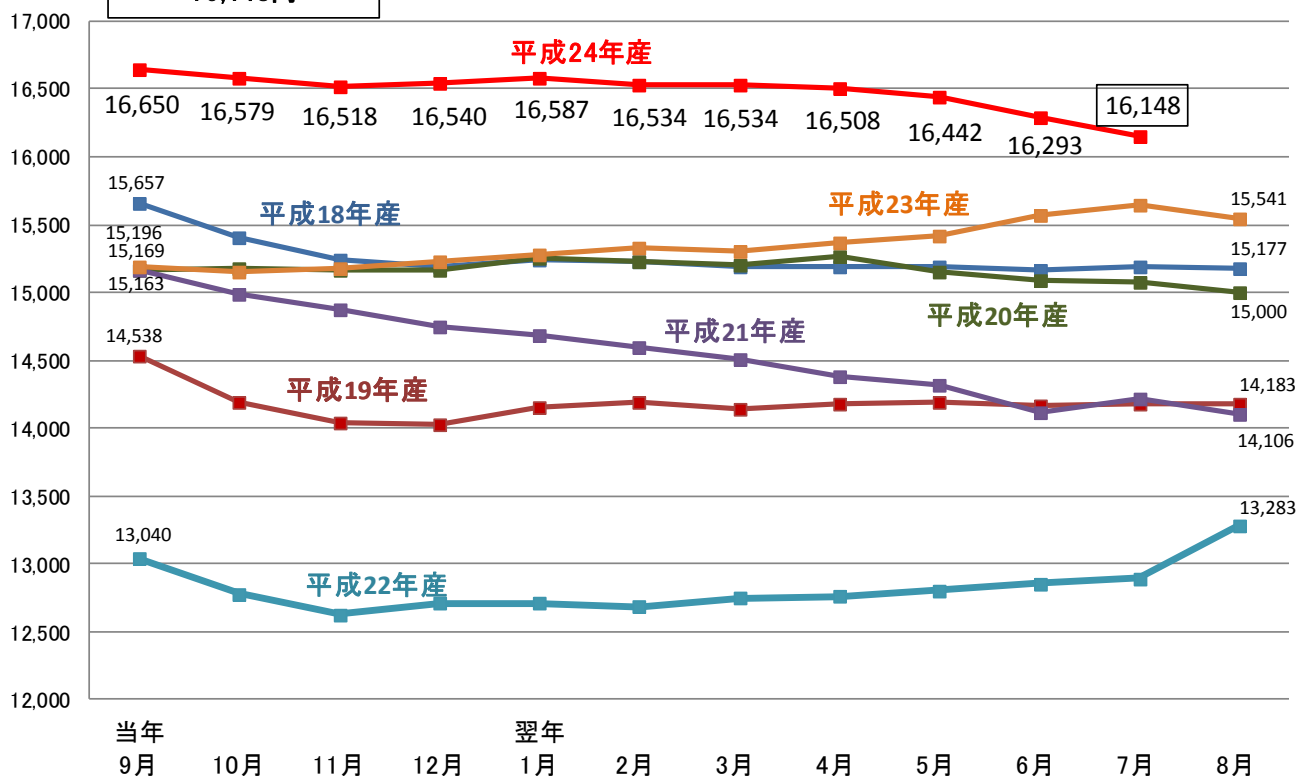
注：1 相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

2 月間の取引量が1,000トン未満となった産地銘柄については、当該月の価格は上図に掲載していない。このため、「北海道きらら397」及び「青森つがるロマン」については、平成25年3月の価格を掲載している。

③ 相対取引価格（年産別）

平成24年産(7月)
16,148円

（単位：円/玄米60kg、税込）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

④ 相対取引数量

(累積数量、平成24年産米の主な産地銘柄別、平成25年7月)(速報)

(単位：玄米トン)

産地	品種銘柄 (地域区分)	24年産 (25年7月まで)	(前年比)	(前々年比)	23年産 (24年7月まで)	22年産 (23年7月まで)
		①	①/②	①/③	②	③
北海道	北海道 きらら397	110,540	(86%)	(103%)	128,213	107,793
	北海道 ななつぼし	168,513	(109%)	(127%)	155,220	133,101
東北	青森 つがるロマン	33,164	(81%)	(76%)	41,058	43,463
	青森 まっしぐら	76,137	(112%)	(170%)	68,147	44,697
	岩手 ひとめぼれ	105,415	(87%)	(98%)	120,483	107,151
	岩手 あきたこまち	26,206	(99%)	(99%)	26,472	26,460
	宮城 ひとめぼれ	169,585	(113%)	(115%)	150,097	147,915
	宮城 ササニシキ	12,976	(106%)	(103%)	12,280	12,559
	秋田 あきたこまち	186,943	(95%)	(94%)	197,346	198,868
	山形 はえぬき	115,718	(91%)	(95%)	127,739	121,227
	福島 コシヒカリ	37,171	(108%)	(102%)	34,387	36,545
	福島 コシヒカリ	50,386	(120%)	(153%)	41,922	32,937
	福島 コシヒカリ	7,978	(109%)	(47%)	7,300	16,918
福島 ひとめぼれ	35,786	(105%)	(82%)	34,158	43,692	
関東・東山	茨城 コシヒカリ	62,985	(109%)	(126%)	57,628	49,860
	栃木 コシヒカリ	136,997	(110%)	(114%)	124,217	120,131
	埼玉 彩のかがやき	8,207	(67%)	(305%)	12,261	2,690
	千葉 コシヒカリ	50,265	(130%)	(114%)	38,715	44,260
	長野 コシヒカリ	62,490	(113%)	(108%)	55,247	57,735
北陸	新潟 コシヒカリ	135,751	(104%)	(102%)	130,960	133,348
	新潟 コシヒカリ	25,556	(93%)	(127%)	27,628	20,063
	新潟 コシヒカリ	17,005	(93%)	(104%)	18,329	16,397
	新潟 コシヒカリ	13,929	(96%)	(102%)	14,515	13,666
	富山 コシヒカリ	87,541	(91%)	(88%)	96,151	99,271
	石川 コシヒカリ	28,828	(104%)	(94%)	27,805	30,517
	福井 コシヒカリ	30,577	(123%)	(117%)	24,921	26,058
	福井 ハナエチゼン	19,524	(162%)	(80%)	12,016	24,352
東海・近畿	三重 コシヒカリ	18,001	(116%)	(101%)	15,478	17,800
	滋賀 コシヒカリ	29,525	(116%)	(105%)	25,477	28,025
	滋賀 キヌヒカリ	18,663	(142%)	(130%)	13,160	14,411
	兵庫 コシヒカリ	13,455	(106%)	(90%)	12,737	14,934
中国・四国	鳥取 コシヒカリ	6,657	(103%)	(62%)	6,456	10,775
	島根 コシヒカリ	26,379	(116%)	(127%)	22,728	20,852
	広島 コシヒカリ	20,630	(124%)	(90%)	16,644	22,930
	山口 コシヒカリ	14,050	(94%)	(91%)	15,015	15,356
	徳島 コシヒカリ	10,279	(104%)	(97%)	9,899	10,553
	香川 ヒノヒカリ	13,042	(104%)	(89%)	12,582	14,680
	高知 コシヒカリ	7,073	(116%)	(99%)	6,082	7,166
九州	福岡 ヒノヒカリ	21,075	(93%)	(97%)	22,566	21,752
	佐賀 夢しずく	9,601	(64%)	(78%)	14,905	12,273
	熊本 ヒノヒカリ	11,359	(90%)	(163%)	12,656	6,950
	大分 ヒノヒカリ	11,021	(98%)	(112%)	11,239	9,829
	宮崎 コシヒカリ	8,152	(132%)	(107%)	6,179	7,597
	鹿児島 ヒノヒカリ	4,392	(60%)	(134%)	7,270	3,284
全銘柄合計契約数量		2,568,029	(101%)	(105%)	2,553,150	2,437,195

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

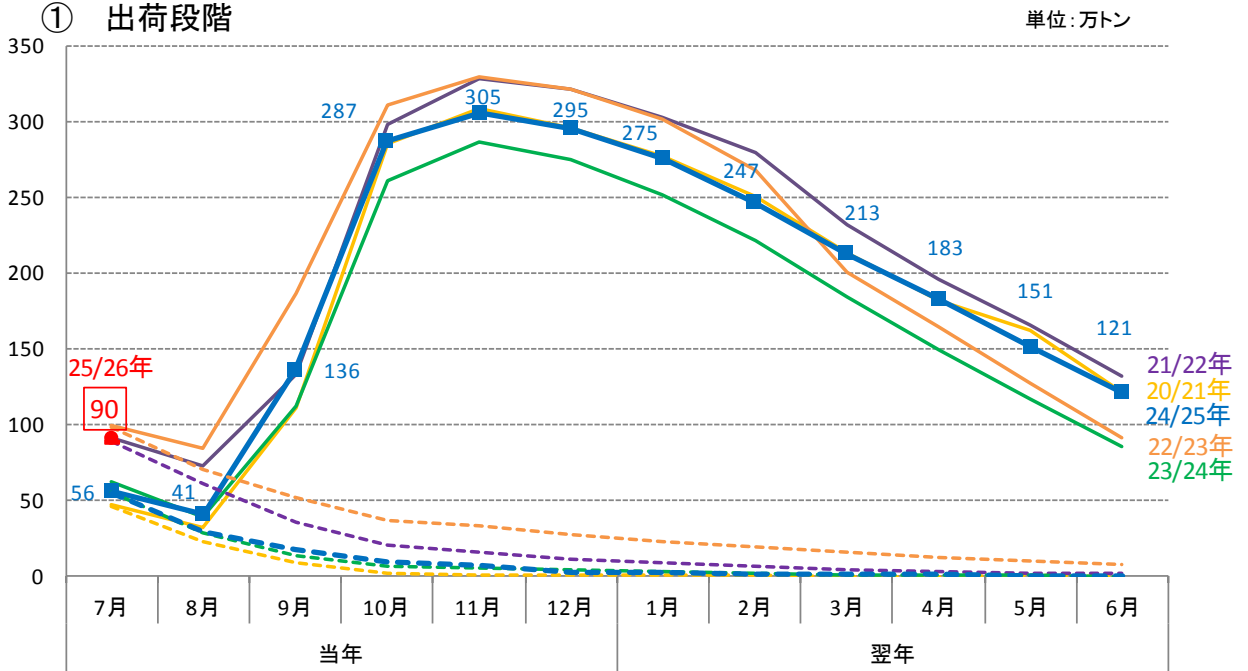
注：1 相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）を行った数量（1等米の数量）である。なお、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本の産地銘柄）については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2 産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち、23年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。

3 全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

(2) 民間在庫の推移

① 出荷段階



注: グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

【出荷段階】

(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121
対前年差	▲16	▲16	▲19	▲7	▲5	+7	+8	+15	+47	+47	+57	+47
1年古米	46	23	9	1	1	1	0	0	0	0	0	0
新米	1	8	101	281	305	293	275	249	212	181	162	121
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11
1年古米	90	61	36	21	15	11	9	7	5	3	2	2
新米	1	11	96	275	309	308	291	271	225	191	162	130
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40
1年古米	99	70	51	37	34	28	23	20	16	13	11	8
新米	0	13	134	271	294	291	276	247	184	151	117	82
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
1年古米	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
新米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
1年古米	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
新米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
25/26年	90											
対前年差	+34											
1年古米	89											
新米	1											

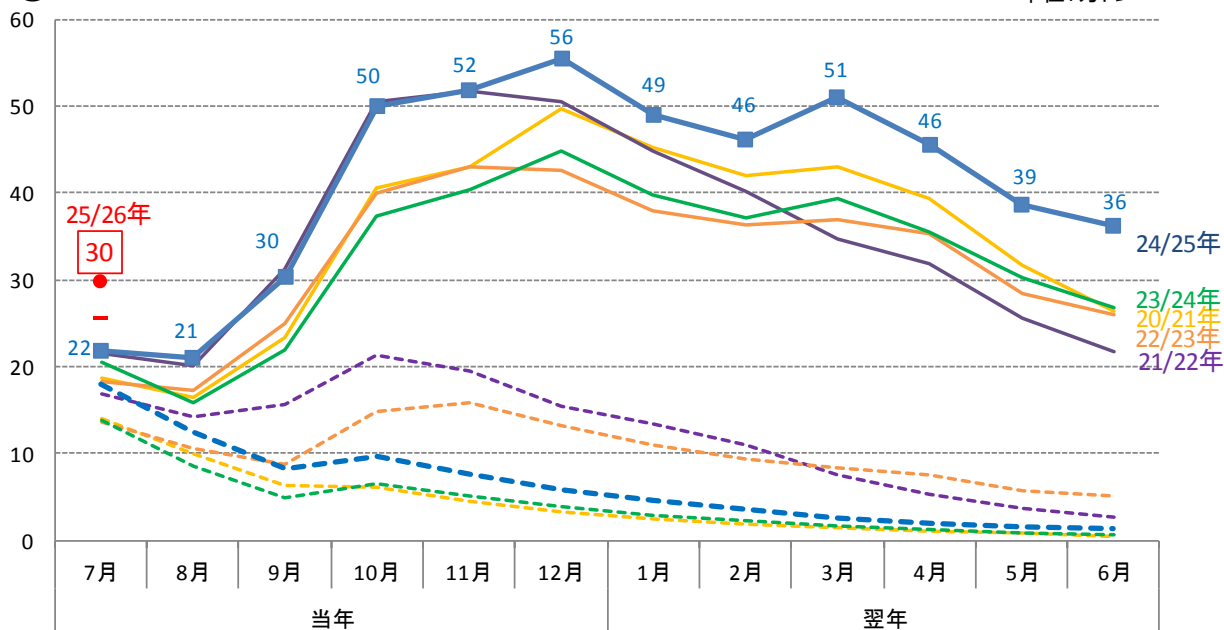
資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(～20年7月)

農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」(20年8月～)

- 注: 1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。
 2 米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。
 3 期間については、23/24年であれば、23年7月～24年6月である。
 4 22/23年7月末以降は、速報値である。
 5 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
 6 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 販売段階

単位: 万トン



注: グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

【販売段階】

(単位: 万トン)

	当年	翌年										
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26
対前年差	▲0	▲1	+2	+4	+3	+2	+2	+2	+5	+4	+6	+3
1年古米	14	10	6	6	5	3	3	2	1	1	1	0
新米	0	3	12	26	28	36	34	32	34	32	26	21
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5
1年古米	17	14	16	21	20	15	13	11	7	5	4	3
新米	0	3	11	22	24	27	24	23	22	22	18	16
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3	+3	+4
1年古米	14	11	9	15	16	13	11	9	8	8	6	5
新米	0	3	12	19	21	23	21	22	24	23	19	17
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	+0	+2	+1
1年古米	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
新米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
1年古米	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
新米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
25/26年	30											
対前年差	+8											
1年古米	25											
新米	0											

資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(～20年7月)

農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」(20年8月～)

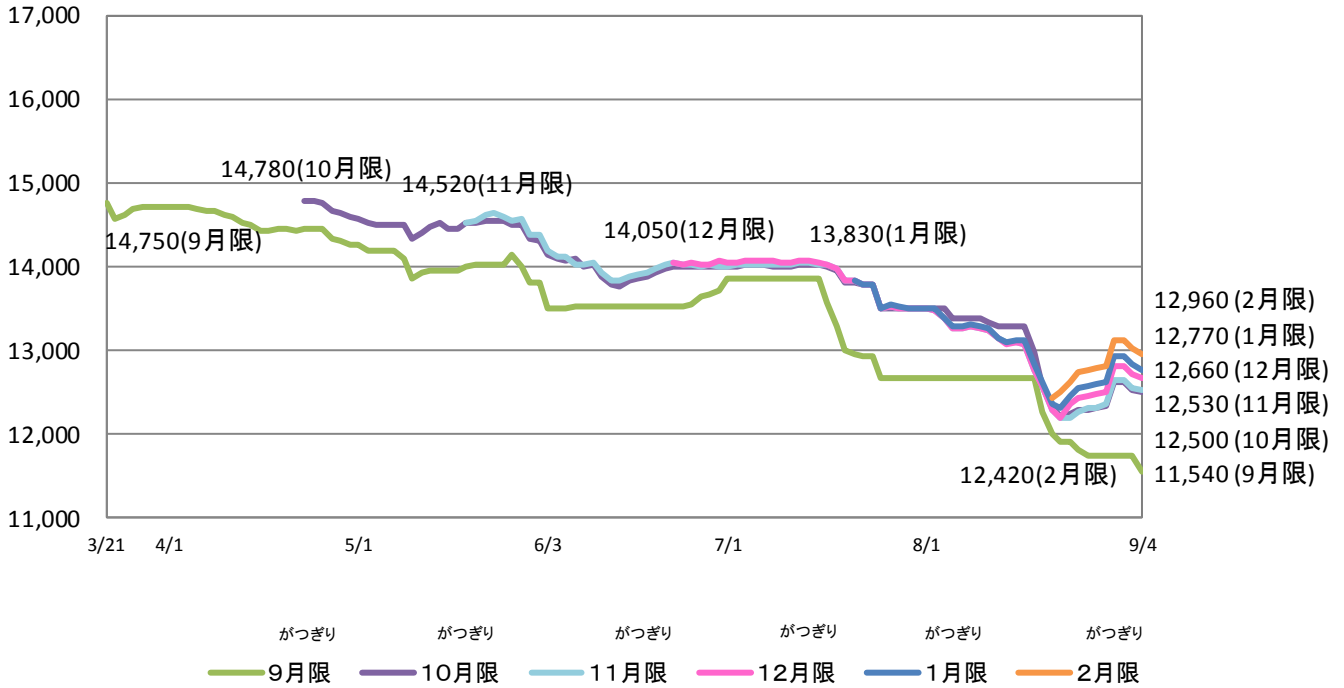
- 注: 1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。
 2 米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。
 3 期間については、23/24年であれば、23年7月～24年6月である。
 4 22/23年7月以降の値は、速報値である。
 5 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
 6 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 米の先物取引価格の推移

①東京コメ

円/60Kg

※10月限より新穀(平成25年産)



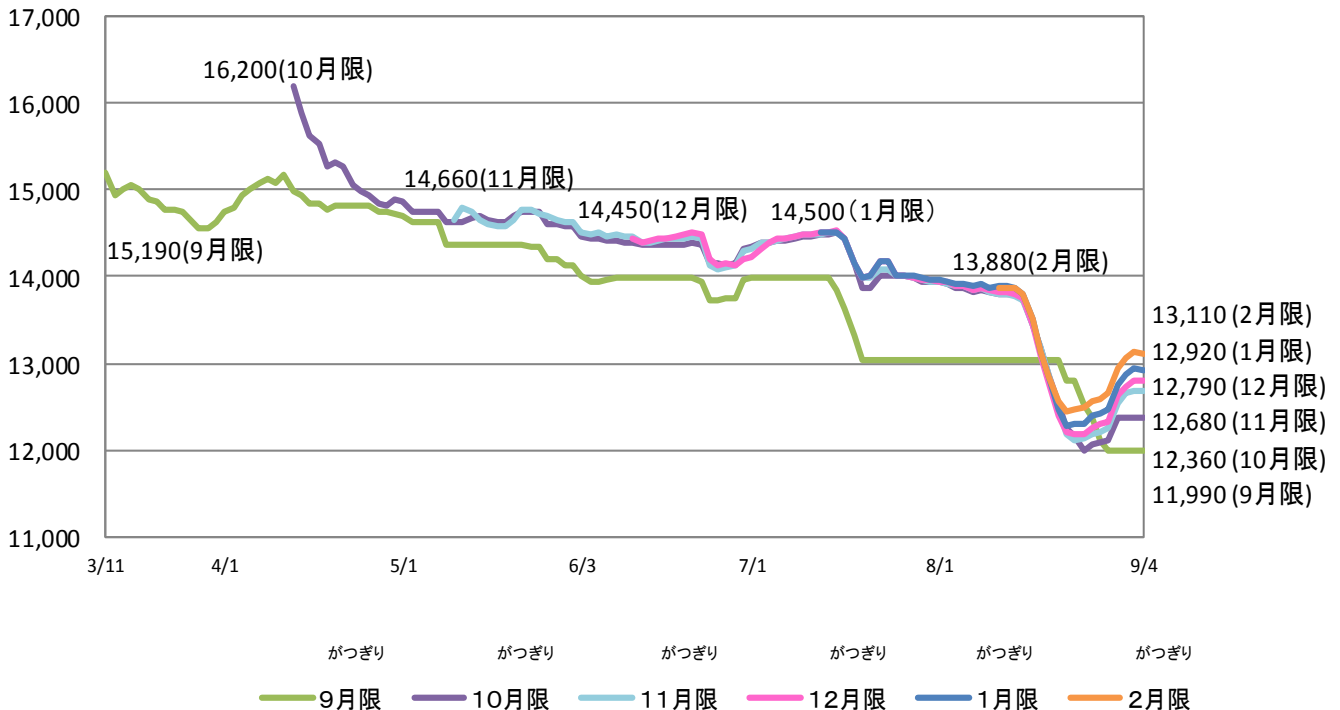
出典:大阪堂島商品取引所(平成25年2月8日以前は東京穀物商品取引所)

注:取引開始から本レポート公表日の2日前の後場第3節までの価格の推移である。

②大阪コメ

円/60Kg

※10月限より新穀(平成25年産)



出典:大阪堂島商品取引所(平成25年2月8日以前は関西商品取引所)

注:取引開始から本レポート公表日の2日前の後場第3節までの価格の推移である。

(4) 業者間取引の状況

① 日本コメ市場（随時取引の結果）(24年産)

○ 価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄	9月下旬	10月上旬	10月下旬	11月上旬	11月下旬	12月上旬	12月下旬	1月上旬	1月下旬	2月上旬	2月下旬
24年産 北海道きらら397	-	-	-	-	-	-	-	16,250	-	-	-
24年産 青森つがるロマン	-	15,116	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 秋田あきたこまち	16,331	16,309	15,976	16,119	16,113	16,233	-	-	16,209	16,260	-
24年産 宮城ひとめぼれ	-	-	16,045	15,800	-	16,285	-	16,101	16,065	16,210	-
24年産 福島中通りコシヒカリ	-	-	-	-	15,506	-	-	15,600	15,402	-	-
24年産 茨城コシヒカリ	15,847	-	-	16,060	-	-	15,900	-	-	-	-
24年産 栃木コシヒカリ	-	15,863	-	-	15,800	-	-	-	-	-	15,850
24年産 新潟一般コシヒカリ	-	-	17,108	-	17,395	-	-	-	-	-	-

年産・産地銘柄	4月上旬	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬	7月上旬	7月下旬
24年産 北海道きらら397	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 青森つがるロマン	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 秋田あきたこまち	15,375	14,989	14,673	-	14,665	-	13,990	13,861
24年産 宮城ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	14,755	-
24年産 福島中通りコシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 茨城コシヒカリ	-	-	14,878	-	-	13,845	13,917	-
24年産 栃木コシヒカリ	-	-	-	14,700	-	14,050	-	-
24年産 新潟一般コシヒカリ	16,860	-	-	-	-	-	-	-

出典： 日本コメ市場株式会社HP

- 注： 1 随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。
 2 上記価格は、日本コメ市場株の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
 3 上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。
 4 「-」に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

② 日本コメ市場・クリスタルライス(取引会の結果)(24年産)

(主たる銘柄の成約状況)

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄	平成24年度												平成25年度			
	第3回		第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第1回		第2回	
	平成24年8月23日		9月13日		10月18日		12月6日		平成25年1月17日		2月28日		4月25日		7月18日	
	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量
24年産 北海道ななつぼし	-	-	-	-	-	-	-	-	16,327	35	-	-	-	-	-	-
24年産 北海道きらら397	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,600	20
24年産 青森まっしぐら	-	-	-	-	15,271	23	15,600	48	-	-	15,550	24	-	-	-	-
24年産 宮城ひとめぼれ	-	-	-	-	15,854	157	-	-	-	-	15,900	22	-	-	-	-
24年産 秋田あきたこまち	-	-	16,334	122	15,964	52	16,160	30	16,194	42	16,000	12	14,971	46	13,820	73
24年産 福島中通りコシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	15,438	102	-	-	-	-	-	-
24年産 福島あきたこまち	-	-	-	-	-	-	15,525	96	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 福島ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,750	24	13,107	37
24年産 福島チヨシキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,350	28	-	-
24年産 茨城コシヒカリ	-	-	15,510	60	15,667	52	15,575	41	16,036	48	-	-	14,898	38	13,585	43
24年産 茨城あきたこまち	15,900	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 栃木コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,833	18	-	-	-	-
24年産 千葉ふさおとめ	15,969	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 新潟一般コシヒカリ	-	-	-	-	17,100	12	-	-	17,210	29	17,050	13	16,557	84	-	-
24年産 富山コシヒカリ	-	-	16,754	53	-	-	16,970	48	-	-	-	-	-	-	14,875	24
成約米穀の平均価格(加重平均)	16,611	463	16,307	473	15,667	676	16,076	713	15,981	743	15,869	436	15,446	362	14,020	435

出典： 日本コメ市場株式会社のHP

- 注： 1 取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。
 2 価格は、取引会における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
 3 「-」は、同社のホームページにおいて非公表を示す。

(5) (株) 加工用米取引センターの取引結果

【平成25年度】

(単位: 成約数量・トン、成約価格・円/60kg(包装代込み・税抜き))

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
平成25年 9月3日	茨城コシヒカリ(主食用)	1等	13.20	12,900

【平成24年度】

(単位: 成約数量・トン、成約価格・円/60kg(包装代込み・税抜き))

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
平成24年 9月3日	千葉ふさおとめ(主食用)	1等	39.60	15,800
9月3日	千葉ふさおとめ(主食用)	1等	39.60	15,700
9月6日	三重コシヒカリ(主食用)	1等	13.20	16,500
9月14日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	10.80	17,050
9月24日	福井ハナエチゼン(主食用)	1等	12.60	16,250
9月25日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	10.80	16,450
9月25日	新潟コシヒカリ(岩船)(主食用)	1等	12.24	18,200
9月25日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	12.24	18,200
9月26日	北海道きさら397(主食用)(フレコン)	1等	21.42	15,350
9月26日	北海道きさら397(主食用)	1等	10.20	15,670
9月28日	山形はえぬき(主食用)	1等	12.96	15,600
9月28日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	10.80	18,450
9月28日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	1等	10.80	23,150
9月28日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	12.00	17,550
10月1日	宮城ひとめぼれ(特載米)(主食用)	1等	12.96	16,050
10月1日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	12.24	18,350
10月9日	山形はえぬき(主食用)	1等	12.96	15,600
10月9日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	12.24	18,350
10月11日	北海道きさら397(主食用)	1等	10.20	15,490
10月12日	青森まっしぐら(主食用)	1等	32.40	15,520
10月16日	北海道きさら397(主食用)	1等	102.00	15,490
10月23日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	5.40	17,450
11月2日	山形はえぬき(主食用)	1等	12.96	15,600
11月9日	佐賀ヒヨクモチ(主食用)	2等	13.20	14,050
11月12日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	12.00	12,750
11月15日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	12.00	12,650
11月20日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	85.92	16,700
11月21日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	12.00	17,600
11月21日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	1等	10.80	23,150

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
11月22日	千葉ふさこがね(主食用)	1等	72.00	15,400
11月22日	山形はえぬき(主食用)	1等	25.92	15,600
11月29日	香川コシヒカリ(主食用)	2等	12.96	16,450
12月10日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	10.80	12,950
12月13日	岩手あきたこまち(主食用)	1等	24.00	16,000
12月17日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	5.40	18,550
平成25年 1月17日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	10.80	17,000
1月18日	岩手あきたこまち(主食用)	1等	12.00	16,000
1月24日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	10.80	17,000
1月24日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	5.40	18,550
1月29日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	60.00	16,810
1月29日	富山コシヒカリ(主食用)	2等	60.00	16,210
2月12日	三重コシヒカリ(主食用)	1等	6.48	16,270
2月12日	三重コシヒカリ(主食用)	2等	6.48	15,670
2月18日	三重コシヒカリ(主食用)	1等	30.00	16,200
2月18日	三重コシヒカリ(主食用)	2等	30.00	15,600
2月18日	鳥取コシヒカリ(主食用)	2等	24.00	16,050
2月26日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	5.40	17,650
2月26日	秋田ひとめぼれ(主食用)	1等	79.20	15,900
3月12日	岩手あきたこまち(主食用)	1等	36.00	16,000
4月19日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	66.00	16,200
4月19日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	52.80	16,150
7月8日	福島コシヒカリ(会津)(主食用)	1等	13.20	15,700
8月6日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	183.60	14,350
8月7日	山形はえぬき(主食用)	1等	36.00	12,600
8月7日	山形はえぬき(主食用)	1等	60.00	12,750
8月8日	山形はえぬき(主食用)	1等	12.00	12,700
8月29日	秋田ひとめぼれ(主食用)	1等	5.40	16,150

資料: (株)加工用米取引センターHP

注: 1 すべて玄米60kg当りの価格。

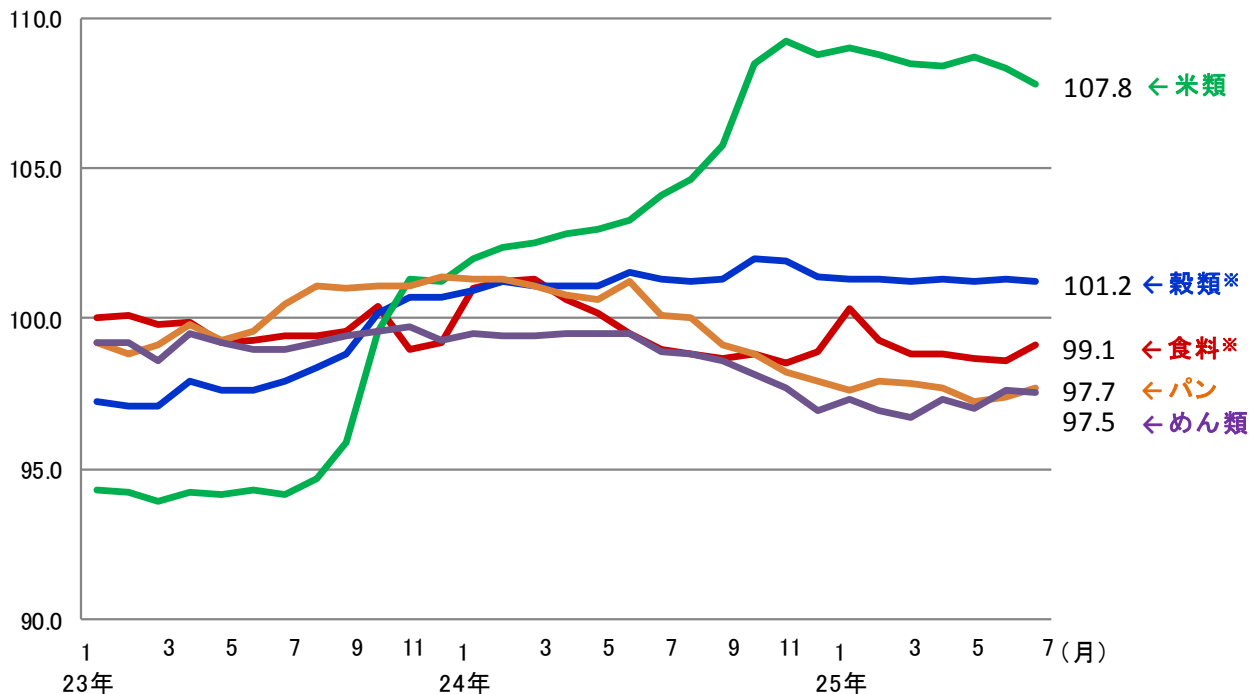
2 商品形態は、玄米30kg紙袋である。ただし、売側・買側の合意があった場合には、フレコンも可とされている。

3 成約価格は、着地持込価格。

Ⅲ 小売・消費段階の動向

(1) 消費者物価指数の推移

(図) 消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成22年の平均価格を100とした数値となる。
 2 図中の数値は、平成25年7月の消費者物価指数となる。
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移 (対前年同月比)

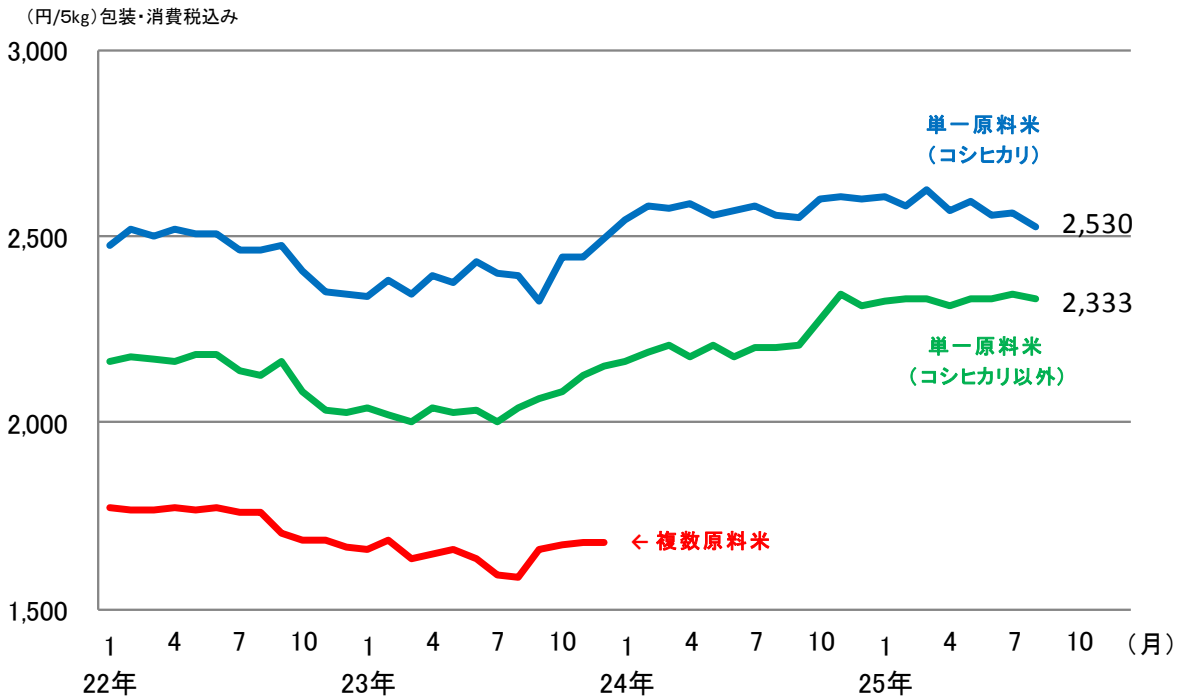
	食料		穀類		米類		うるち米	パン		めん類		
	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比		対前年同月比	対前年同月比			
平成17年	96.8	▲0.9%	98.5	▲6.6%	109.8	▲13.3%	109.8	▲12.9%	91.6	▲1.1%	91.2	▲0.9%
平成18年	97.3	0.5%	96.8	▲1.7%	106.4	▲3.1%	106.5	▲3.0%	91.5	▲0.1%	90.1	▲1.2%
平成19年	97.6	0.3%	96.4	▲0.4%	104.5	▲1.8%	104.7	▲1.7%	92.1	0.7%	89.7	▲0.4%
平成20年	100.1	2.6%	102.6	6.4%	103.2	▲1.2%	103.4	▲1.2%	103.8	12.7%	100.2	11.7%
平成21年	100.3	0.2%	103.3	0.7%	103.6	0.4%	103.6	0.2%	104.0	0.2%	101.9	1.7%
平成22年	100.0	▲0.3%	100.0	▲3.2%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.8%	100.0	▲1.9%
平成23年	99.6	▲0.4%	98.4	▲1.6%	96.0	▲4.0%	95.9	▲4.1%	100.2	0.2%	99.2	▲0.8%
平成24年	99.7	0.1%	101.3	2.9%	104.8	9.2%	105.1	9.6%	100.0	▲0.2%	98.8	▲0.4%
平成24年1月	101.0	1.0%	100.9	3.8%	102.0	8.2%	102.3	8.5%	101.3	2.1%	99.5	0.3%
2月	101.2	1.1%	101.2	4.2%	102.4	8.7%	102.7	9.3%	101.3	2.5%	99.4	0.2%
3月	101.3	1.5%	101.1	4.1%	102.5	9.2%	102.8	9.6%	101.1	2.0%	99.4	0.8%
4月	100.6	0.7%	101.1	3.3%	102.8	9.1%	103.0	9.5%	100.8	1.0%	99.5	0.0%
5月	100.2	1.0%	101.1	3.6%	103.0	9.5%	103.2	9.9%	100.6	1.3%	99.5	0.3%
6月	99.5	0.2%	101.5	4.0%	103.3	9.5%	103.6	10.1%	101.2	1.6%	99.5	0.5%
7月	99.0	▲0.4%	101.3	3.5%	104.1	10.6%	104.4	11.1%	100.1	▲0.4%	98.9	▲0.1%
8月	98.8	▲0.6%	101.2	2.8%	104.6	10.5%	104.9	10.9%	100.0	▲1.1%	98.8	▲0.4%
9月	98.7	▲0.9%	101.3	2.5%	105.8	10.3%	106.3	11.0%	99.1	▲1.9%	98.6	▲0.8%
10月	98.8	▲1.6%	102.0	1.8%	108.5	8.9%	109.0	9.3%	98.8	▲2.3%	98.1	▲1.5%
11月	98.5	▲0.5%	101.9	1.2%	109.2	7.8%	109.7	8.1%	98.2	▲2.9%	97.7	▲2.0%
12月	98.9	▲0.3%	101.4	0.7%	108.8	7.5%	109.5	7.9%	97.9	▲3.5%	96.9	▲2.4%
平成25年1月	100.3	▲0.7%	101.3	0.4%	109.0	6.9%	109.6	7.1%	97.6	▲3.7%	97.3	▲2.2%
2月	99.3	▲1.9%	101.3	0.1%	108.8	6.3%	109.3	6.4%	97.9	▲3.4%	96.9	▲2.5%
3月	98.8	▲2.5%	101.2	0.1%	108.5	5.9%	109.1	6.1%	97.8	▲3.3%	96.7	▲2.7%
4月	98.8	▲1.8%	101.3	0.2%	108.4	5.4%	108.9	5.7%	97.7	▲3.1%	97.3	▲2.2%
5月	98.7	▲1.5%	101.2	0.1%	108.7	5.5%	109.2	5.8%	97.2	▲3.4%	97.0	▲2.5%
6月	98.6	▲0.9%	101.3	▲0.2%	108.3	4.8%	108.8	5.0%	97.4	▲3.8%	97.6	▲1.9%
7月	99.1	0.1%	101.2	▲0.1%	107.8	3.6%	108.3	3.7%	97.7	▲2.4%	97.5	▲1.4%

資料：総務省「消費者物価指数」(平成22年基準)

- 注：1 表中の数値は、平成22年の平均価格を100として指数化したものである。
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
 3 穀類は、米類(うるち米、もち米)、パン、めん類、他の穀類からなる。
 4 平成17年から平成24年のデータは年平均、平成24年1月以降は月次データを用いている。

(2) 小売物価統計の推移

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位:円/5kg 包装・消費税込み)

	うるち米		
	単一原料米 (コシヒカリ)	単一原料米 (コシヒカリ以外)	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年	2,462	2,136	1,739
平成23年	2,399	2,053	1,649
平成24年	2,577	2,223	-
平成24年1月	2,545	2,165	-
2月	2,585	2,188	-
3月	2,576	2,209	-
4月	2,592	2,178	-
5月	2,559	2,206	-
6月	2,568	2,177	-
7月	2,583	2,205	-
8月	2,557	2,202	-
9月	2,550	2,210	-
10月	2,604	2,276	-
11月	2,609	2,345	-
12月	2,600	2,315	-
平成25年1月	2,608	2,330	-
2月	2,585	2,336	-
3月	2,627	2,331	-
4月	2,573	2,313	-
5月	2,593	2,331	-
6月	2,559	2,331	-
7月	2,566	2,347	-
8月	2,530	2,333	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

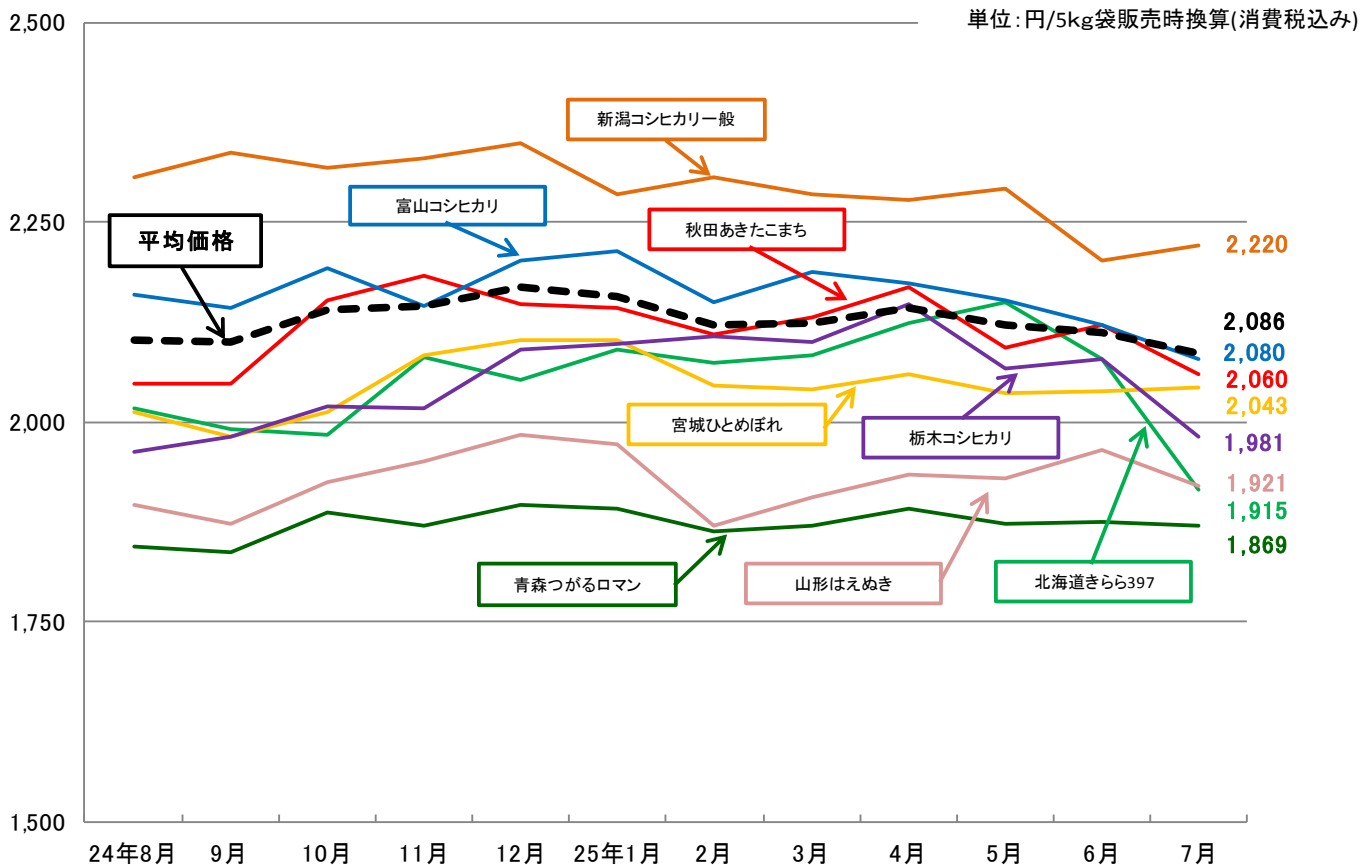
2：特売を除いた価格である。

3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(3) 小売価格の推移 (POSデータ)

(図) 小売価格の推移



(表) 小売価格の推移

単位: 円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄								
	北海道 きらら397	青森 つがるロマン	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	栃木 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	富山 コシヒカリ	全POS取引 平均価格
24年8月	2,016	1,843	2,012	2,048	1,897	1,962	2,306	2,160	2,102
9月	1,990	1,837	1,982	2,047	1,872	1,981	2,338	2,144	2,100
10月	1,983	1,887	2,013	2,152	1,925	2,020	2,318	2,193	2,140
11月	2,081	1,869	2,084	2,183	1,951	2,017	2,331	2,145	2,145
12月	2,052	1,897	2,103	2,147	1,984	2,090	2,350	2,203	2,170
25年1月	2,091	1,891	2,102	2,144	1,972	2,097	2,285	2,215	2,156
2月	2,075	1,863	2,045	2,110	1,869	2,108	2,307	2,150	2,122
3月	2,084	1,871	2,041	2,131	1,905	2,100	2,286	2,188	2,125
4月	2,124	1,891	2,059	2,168	1,935	2,147	2,279	2,174	2,143
5月	2,150	1,873	2,036	2,093	1,930	2,066	2,293	2,152	2,122
6月	2,079	1,876	2,038	2,121	1,964	2,079	2,201	2,122	2,111
7月	1,915	1,869	2,043	2,060	1,921	1,981	2,220	2,080	2,086

資料: (株) KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注: 1 (株) KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約860店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

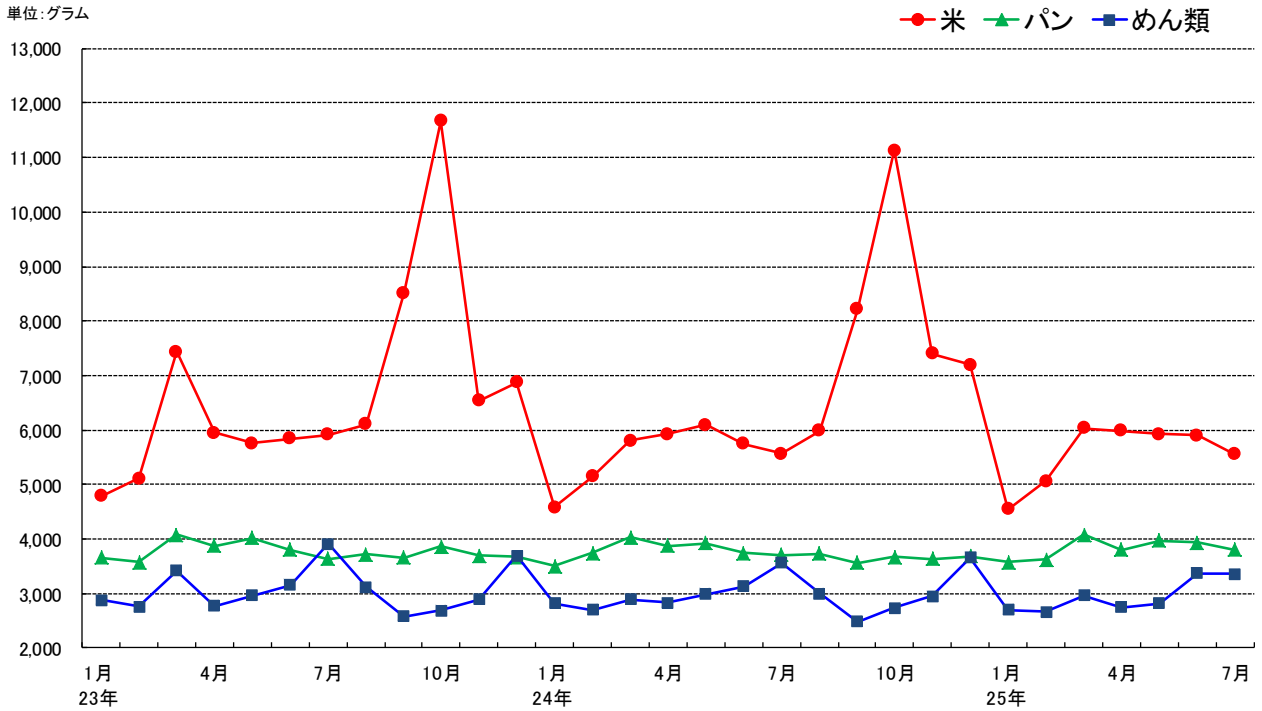
2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

(4) 購入数量の推移(家計調査)

(図)購入数量の推移



(表)購入数量の推移

(単位:グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,140	97.7%	45,493	99.8%	36,999	101.0%
平成23年	80,510	96.8%	45,254	99.5%	36,835	99.6%
平成24年	78,800	97.9%	44,820	99.0%	35,738	97.0%
平成23年1月	4,790	97.4%	3,656	99.5%	2,875	96.9%
2月	5,110	91.3%	3,573	102.6%	2,763	99.5%
3月	7,440	115.9%	4,076	99.0%	3,424	109.2%
4月	5,950	93.0%	3,878	97.2%	2,776	94.5%
5月	5,760	91.0%	4,015	101.5%	2,958	98.6%
6月	5,840	90.8%	3,804	100.4%	3,149	103.7%
7月	5,910	96.3%	3,640	94.5%	3,911	111.6%
8月	6,110	97.9%	3,724	103.1%	3,122	95.5%
9月	8,520	95.4%	3,653	99.7%	2,583	101.9%
10月	11,670	113.2%	3,866	97.2%	2,686	92.2%
11月	6,540	82.6%	3,700	100.0%	2,893	95.8%
12月	6,870	91.6%	3,669	99.7%	3,695	94.6%
平成24年1月	4,580	95.6%	3,505	95.9%	2,821	98.1%
2月	5,150	100.8%	3,744	104.8%	2,699	97.7%
3月	5,810	78.1%	4,035	99.0%	2,889	84.4%
4月	5,930	99.7%	3,870	99.8%	2,831	102.0%
5月	6,090	105.7%	3,917	97.6%	2,986	100.9%
6月	5,750	98.5%	3,741	98.3%	3,132	99.5%
7月	5,560	94.1%	3,704	101.8%	3,557	90.9%
8月	5,990	98.0%	3,736	100.3%	2,996	96.0%
9月	8,220	96.5%	3,566	97.6%	2,477	95.9%
10月	11,130	95.4%	3,676	95.1%	2,738	101.9%
11月	7,400	113.1%	3,640	98.4%	2,955	102.1%
12月	7,190	104.7%	3,686	100.5%	3,657	99.0%
平成25年1月	4,550	99.3%	3,572	101.9%	2,695	95.5%
2月	5,060	98.3%	3,625	96.8%	2,665	98.7%
3月	6,030	103.8%	4,076	101.0%	2,965	102.6%
4月	5,980	100.8%	3,802	98.2%	2,752	97.2%
5月	5,920	97.2%	3,972	101.4%	2,816	94.3%
6月	5,900	102.6%	3,929	105.0%	3,365	107.4%
7月	5,550	99.8%	3,803	102.7%	3,363	94.5%

資料： 総務省「家計調査」

注： 1 二人以上の世帯の数値である。

2 平成20年から平成24年については、年間の購入数量を示す。

3 精米ベースである。

② 精米購入時の動向

(ア) 入手経路(複数回答)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協 (店舗・共同購入含む)	農協 (店舗・共同購入含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから無償で入手	その他
平成23年度	0.7	45.9	3.7	4.2	0.4	8.6	1.4	3.8	1.3	6.8	6.4	23.5	2.2
平成24年度	1.0	45.1	4.3	3.4	0.3	7.8	1.8	4.2	1.8	7.0	7.4	22.9	2.0
平成25年4月	0.7	49.0	4.4	3.2	0.1	7.7	1.5	3.4	1.6	6.7	8.1	17.5	3.0
5月	0.7	49.2	4.2	2.7	0.5	7.0	1.4	4.9	1.8	5.9	10.3	17.7	1.5
6月	0.6	50.5	4.0	2.2	0.4	8.3	1.6	4.1	1.9	6.3	9.2	17.6	1.6
7月	0.8	49.1	4.6	3.8	0.5	7.6	1.9	5.1	1.3	5.8	9.4	17.9	0.9

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

(イ) 入手経路別の購入数量

	25年4月(n=1373)			25年5月(n=1452)			25年6月(n=1665)		
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量
デパート	55	0.4	5.9	45	0.3	4.4	112	0.7	10.7
スーパーマーケット	5,104	38.2	7.6	5,586	37.8	7.8	6,478	39.2	7.7
ドラッグストア	447	3.4	7.3	415	2.8	6.8	500	3.0	7.5
ディスカウントストア	370	2.8	8.3	309	2.1	7.8	259	1.6	7.0
コンビニエンスストア	13	0.1	6.5	29	0.2	4.1	19	0.1	3.0
生協(店舗・共同購入含む)	746	5.6	7.0	790	5.3	7.8	1,106	6.7	8.0
農協(店舗・共同購入含む)	257	1.9	12.2	280	1.9	13.4	364	2.2	13.4
米穀専門店	498	3.7	10.7	688	4.7	9.6	661	4.0	9.7
産地直売所	194	1.5	8.8	251	1.7	9.4	265	1.6	8.2
生産者から直接購入	1,892	14.2	20.6	1,635	11.1	19.0	2,209	13.3	21.2
インターネットショップ	1,299	9.7	11.7	1,790	12.1	12.0	1,697	10.3	11.1
家族・知人などから無償で入手	2,469	18.5	10.3	2,959	20.0	11.5	2,877	17.4	9.8

	25年7月(n=1630)		
	購入数量	比率	世帯平均購入数量
デパート	76	0.5	6.1
スーパーマーケット	6,372	38.8	8.0
ドラッグストア	560	3.4	7.5
ディスカウントストア	524	3.2	8.6
コンビニエンスストア	36	0.2	4.8
生協(店舗・共同購入含む)	1,046	6.4	8.4
農協(店舗・共同購入含む)	451	2.7	14.2
米穀専門店	838	5.1	10.0
産地直売所	167	1.0	7.8
生産者から直接購入	1,769	10.8	18.6
インターネットショップ	1,602	9.7	10.5
家族・知人などから無償で入手	2,994	18.2	10.3

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 上記データの留意点については、①の注釈を参照。

2 世帯平均購入数量は、精米を購入した世帯の平均購入数量である。

3 25年5月の「世帯平均購入数量」欄については、米穀機構の公表資料の訂正に伴い、本レポートにおいても訂正を行っている。

(ウ) 重視する点(複数回答)

(%)

	産地	品種	年産	価格	(食味 おいしさ)	適量感	安全性	無洗米	精米年月日	栽培方法	製造販売事業者	販売店	その他
平成23年度	49.8	51.4	36.6	77.8	48.8	9.0	31.1	-	27.4	4.5	7.7	4.6	5.0
平成24年度	53.8	51.4	36.8	74.5	49.0	9.0	32.4	11.4	23.9	5.2	8	4.6	2.5
平成25年4月	54.8	52.3	32.8	77.1	45.2	9.0	31.1	12.8	23.1	4.0	7.3	3.7	3.1
5月	54.1	53.7	34.3	75.2	46.5	8.1	32.1	11.9	22.3	3.9	6.0	3.5	2.3
6月	54.5	53.7	33.9	76.2	47.7	9.2	29.3	12.3	23.3	3.4	6.7	3.7	2.4
7月	55.4	52.7	35.0	77.6	47.6	8.2	31.8	11.5	22.5	3.8	8.0	4.2	1.5

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

(エ) 家庭内の月末在庫数量

(kg/世帯)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
23年度	月末在庫数量	6.8	7.0	7.0	6.7	6.9	6.9	8.3	7.9	8.3	7.6	7.5	7.2
	平均世帯人員	2.51	2.51	2.54	2.53	2.54	2.53	2.53	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54
24年度	月末在庫数量	6.1	6.1	6.3	6.2	6.1	6.5	7.3	7.2	7.4	7.1	6.8	6.8
	平均世帯人員	2.42	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41
25年度	月末在庫数量	6.4	6.3	6.3	6.2								
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41								

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 上記データの留意点については、①の注釈を参照。

2 平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

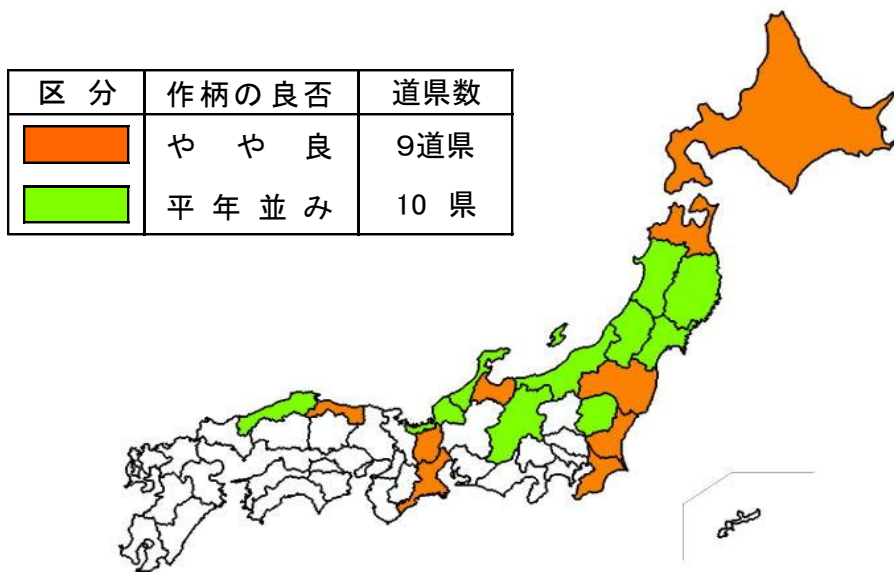
IV 生産段階の動向

(1) 平成25年産水稻の8月15日現在における作柄概況

【調査結果の概要】

- 1 早場地帯（19道県）の作柄は、「やや良」ないし「平年並み」と見込まれる。
これは、田植期以降、おおむね天候に恵まれていることから、全もみ数が平年並みないしやや多いと見込まれ、登熟も順調に推移していると思込まれるためである。
- 2 遅場地帯（沖縄県（第二期稲）を除く27都府県）の生育は、6月が日照不足傾向であったものの、その後はおおむね天候に恵まれていることから、「やや良」ないし「平年並み」で推移している。

図 早場地帯の作柄の良否



注：1 地図上の白抜きの都府県は、遅場地帯を表す。

2 作柄の良否の表示区分は、「やや良」が作況指数105～102に、「平年並み」が101～99に相当する。

- 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める19道県である。（平成24年産作付面積割合：66.4%）
- 遅場地帯とは、早場地帯の道県以外の都府県である。（平成24年産作付面積割合：32.0%）
- 遅場地帯の水稻のうち、早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培並びに沖縄県の第一期稲は、西南暖地における早期栽培等として別に集計している。（平成24年産作付面積割合：1.7%）
- 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

表 平成25年産水稻の西南暖地における早期栽培等の10a当たり予想収量（8月15日現在）

区 分	10 a 当たり 予想収量 ①	10 a 当たり 平年収量 ②	(参 考)		
			予想収穫量	作 付 面 積 (子実用、見込 み) ④	作況指数
			③=①×④		⑤=①/②
	kg	kg	t	ha	
徳 島	468	463	24,700	5,280	101
高 知	473	481	36,200	7,650	98
宮 崎	476	480	38,100	8,000	99
鹿 児 島	461	443	25,300	5,490	104
沖 縄	332	370	1,980	596	90

- 注：1 沖縄県は第一期稲である。
 2 全国の水稲作付面積に占める西南暖地における早期栽培等の割合は、平成24年産で1.7%となっている。
 3 (参考) 作付面積（子実用、見込み）は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性がある。

表 平成25年産水稻早場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較				
	作柄の良否	穂数の多少	一穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
北 海 道	やや良	平年並み	やや少ない	平年並み	やや良
青 森	やや良	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
岩 手	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
宮 城	平年並み	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
秋 田	平年並み	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
山 形	平年並み	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
福 島	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
茨 城	やや良	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
栃 木	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
千 葉	やや良	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
新 潟	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
富 山	やや良	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
石 川	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福 井	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
長 野	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
三 重	やや良	平年並み	やや多い	平年並み	やや良
滋 賀	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
鳥 取	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
島 根	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み

- 注：1 本表で用いた作柄の良否の表示区分は、「良」が作況指数106以上、「やや良」が105～102、「平年並み」が101～99、「やや不良」が98～95、「不良」が94以下に相当する。
 2 本表で「穂数の多少」、「一穂当たりもみ数の多少」、「全もみ数の多少」、「登熟の良否」に用いた表示区分は、「多い(良)」が対平年比106%以上、「やや多い(やや良)」が同105～102%、「平年並み」が同101～99%、「やや少ない(やや不良)」が同98～95%、「少ない(不良)」が同94%以下に相当する。
 3 全国の水稲作付面積に占める早場地帯の割合は、平成24年産で66.4%となっている。

表 平成25年産水稻遅早場地帯の生育状況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較		
	生育の良否	草丈の長短	
		草丈の長短	茎数の多少
群 馬	平年並み	平年並み	やや多い
埼 玉	平年並み	やや長い	平年並み
東 京	やや良	やや長い	多 い
神 奈 川	やや良	やや長い	やや多い
山 梨	平年並み	平年並み	やや多い
岐 阜	平年並み	平年並み	平年並み
静 岡	平年並み	平年並み	平年並み
愛 知	平年並み	平年並み	やや多い
京 都	やや良	平年並み	やや多い
大 阪	やや良	やや長い	やや多い
兵 庫	やや良	平年並み	やや多い
奈 良	やや良	平年並み	多 い
和 歌 山	平年並み	平年並み	平年並み
岡 山	やや良	平年並み	やや多い
広 島	やや良	平年並み	やや多い
山 口	やや良	やや長い	やや多い
徳 島（普通栽培）	やや良	やや長い	平年並み
香 川	やや良	やや長い	やや多い
愛 媛	やや良	やや長い	やや多い
高 知（普通栽培）	平年並み	平年並み	平年並み
福 岡	平年並み	やや長い	平年並み
佐 賀	やや良	やや長い	やや多い
長 崎	平年並み	やや長い	平年並み
熊 本	平年並み	やや長い	平年並み
大 分	やや良	平年並み	やや多い
宮 崎（普通栽培）	やや良	平年並み	多 い
鹿 児 島（普通栽培）	やや良	長 い	やや多い

注：1 生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。
2 全国の水稲作付面積に占める遅場地帯の割合は、平成24年度で32.0%となっている。

○ 平成25年産水稻の8月15日現在における作柄概況は「農林水産統計」からの抜粋。詳しくは、下記にて御覧いただけます。
農林水産省ホーム > 組織・政策 > 統計情報 【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

(2) 国産米(水稻)の作況・収穫量

年 産	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参考)				作況 指数
				主 食 用 作付面積 ha	収 穫 量 (主食用) t	10a当たり 平 年 収 量 kg	生 産 数 量 目 標 t	
18	1,684,000	507	8,546,000	529	8,330,000	96
19	1,669,000	522	8,705,000	529	8,280,000	99
20	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	530	8,150,000	102
21	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	530	8,150,000	98
22	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	530	8,130,000	98
23	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	530	7,950,000	101
24	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	530	7,930,000	102

出典：農林水産省統計部「統計情報」

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積である。

3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。

(3) 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量(子実用)及び10a当たり収量

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取り済みの地域について、ふるい目幅の重量割合並びに選別ふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a 当たり収量の概数値を示すと次のとおりである。

① ふるい目幅別重量分布状況

単位：%

年産	区分	合計	ふるい目幅別重量割合					
			2.00mm以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
17年産		100.0	71.2	20.5	3.6	2.3	1.4	1.0
18年産		100.0	72.9	19.2	3.5	2.2	1.3	0.9
19年産		100.0	75.5	17.9	3.0	1.8	1.1	0.7
20年産		100.0	76.2	16.5	3.0	2.1	1.3	0.9
21年産		100.0	75.2	17.4	3.2	2.1	1.3	0.8
22年産		100.0	81.3	13.2	2.3	1.6	1.0	0.6
23年産		100.0	75.8	16.6	3.1	2.2	1.4	0.9
24年産		100.0	81.7	13.0	2.2	1.5	1.0	0.6

資料：「水陸等の収穫量（17年産～24年産）統計表【参考1】水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量（子実用）及び10a 当たり収量」（農林水産省公表）より抜粋。

注：未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

② 選別ふるい目幅別収穫量(子実用)及び10a 当たり収量

単位：kg（10a 当たり収量）、トン（収穫量（子実用））

年産	区分	選別ふるい目幅別収穫量及び10a 当たり収量					
		1.70mm選別	1.75mm選別	1.80mm選別	1.85mm選別	1.90mm選別	2.00mm選別
17年産	10a 当たり収量	532	527	519	507	488	379
18年産		507	502	496	485	467	370
19年産		522	518	513	503	488	394
20年産		543	538	531	520	503	414
21年産		522	518	511	500	483	393
22年産		522	519	514	505	493	424
23年産		533	528	521	509	492	404
24年産		540	537	531	523	511	441
	収穫量（子実用）	8,519,000	8,468,000	8,383,000	8,255,000	8,067,000	6,960,000

資料：「水陸等の収穫量（17年産～24年産）統計表【参考1】水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量（子実用）及び10a 当たり収量」（農林水産省公表）より抜粋。

注：1 選別ふるい目幅別の収穫量とは、全国の予想収穫量に選別ふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 選別ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a 当たり収量のことである。

(4) 加工用米及び新規需要米の取組状況

① 加工用米の生産量

(単位:トン)

	うるち米	もち米	合計	流通	
				全国流通	地域流通
平成16年産	117,837	4,404	122,241	121,719	522
17年産	123,996	4,738	128,734	127,160	1,574
18年産	140,596	7,996	148,592	146,529	2,064
19年産	152,145	10,659	162,804	160,670	2,134
20年産	138,895	10,154	149,048	142,803	6,246
21年産	134,389	6,779	141,168	122,771	18,397
22年産	190,883	21,945	212,829	134,958	77,870
23年産	122,699	31,856	154,555	46,087	108,468
24年産	149,662	32,497	182,158	66,058	116,100

資料：農林水産省「加工用米生産量」

- 注：1 平成23年産までは「米穀の需給調整実施要領」の規定により報告された生産集出荷数量。平成24年産は、取組計画の認定を受けた生産予定数量（平成24年10月15日現在）。
- 2 全国流通の値は、生産集出荷数量等のうち、取組主体が全国生産出荷団体であるものの合計値。
- 3 地域流通の値は、生産集出荷数量等のうち、取組主体が都道府県出荷団体、認定方針作成者及び農業者であるものの合計値。
- 4 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 新規需要米の用途別認定状況

単位(トン、ha)

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産		平成23年産		平成24年産	
	認定数量	認定面積	認定数量	認定面積	認定数量	認定面積	認定数量	認定面積	認定数量	認定面積
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957	40,311	7,324	34,521	6,437
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883	183,033	33,955	183,431	34,525
WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	—	9,089	—	10,203	—	15,939	—	23,086	—	25,672
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397	2,998	415	2,793	450
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388	1,626	287	2,524	454
その他 (わら専用稲、青刈り用稲等)	982	1,330	1,108	956	694	508	852	501	857	553
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072	228,820	65,569	224,127	68,091

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」

- 注：1 WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため計画生産量はなし。
- 2 平成24年産は、需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成24年10月15日現在の値。
- 3 なお、ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(5) 水稻うるち玄米の検査結果

① 検査数量及び等級比率(年産別)

(単位:トン、%)

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24 ※1	4,657,491	3,647,067	851,813	80,027	78,584	78.3	18.3	1.7	1.7
25 ※2	23,438	15,169	7,431	702	136	64.7	31.7	3.0	0.6

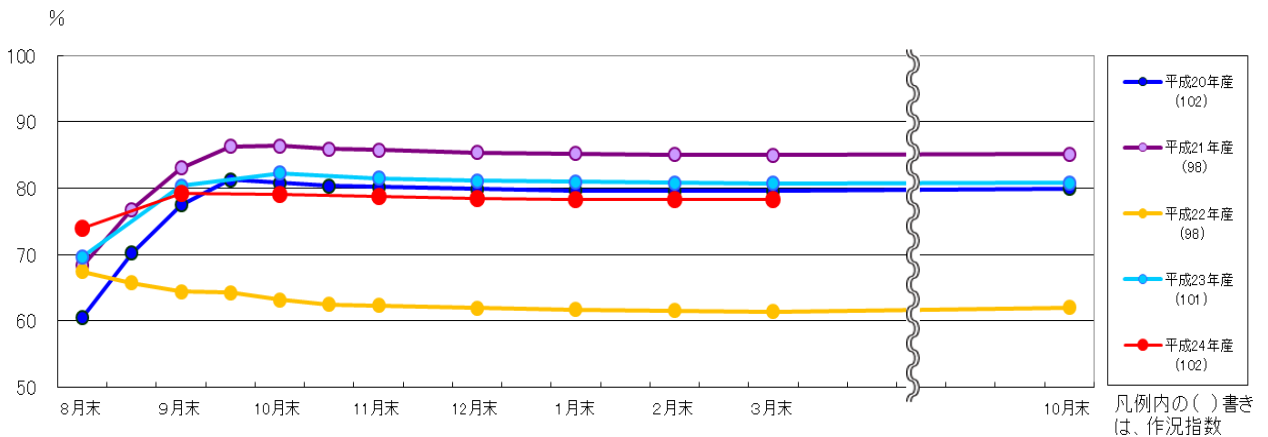
資料： 農林水産省とりまとめ

注： 1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 ※1の24年産については、平成25年3月31日現在（速報値）

3 ※2の25年産については、平成25年7月31日現在（速報値）

② 水稻うるち玄米の1等比率の推移



資料： 農林水産省とりまとめ

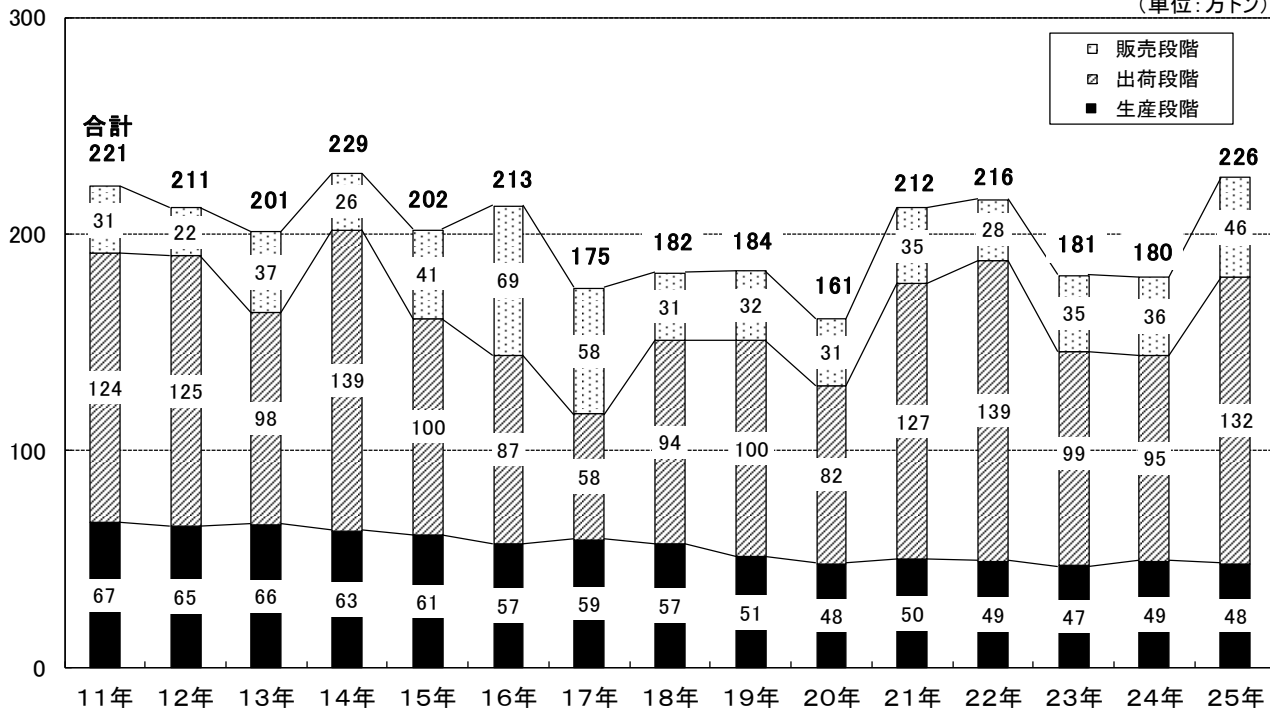
注： 1 「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 1等比率については、4月以降変動が軽微なため、平成23年産から、翌年4月末～翌年9月末の間、公表していない。

V 主食用米等の需給見通し（平成25年7月の米の基本指針）

(1) 民間流通における6月末在庫の推移

（単位：万トン）



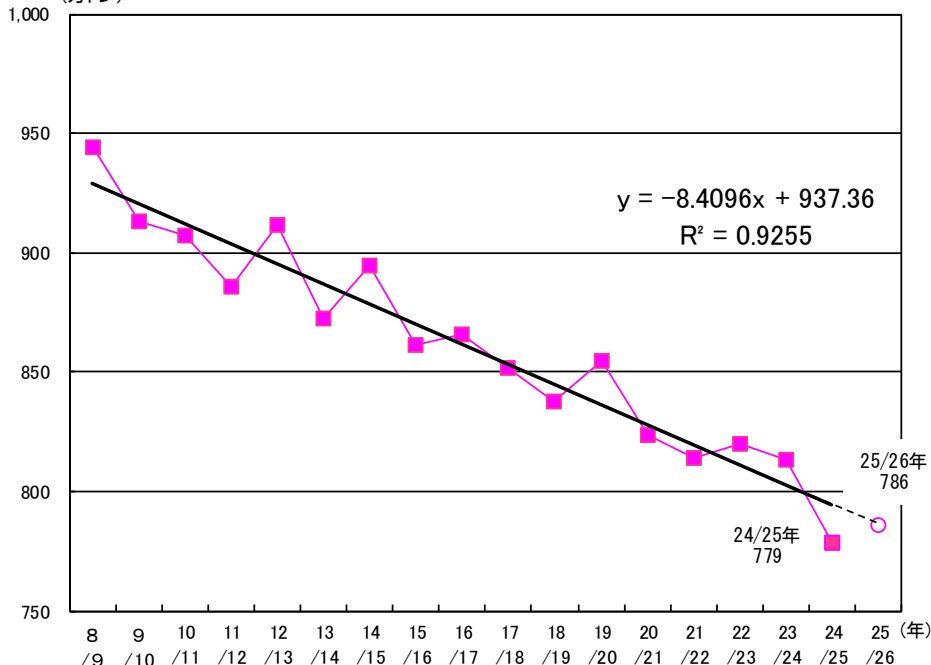
- 注：1 うち玄米及びもち玄米の値である。
 2 各年の民間在庫量において、
 ① 平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。
 ② 平成15年については、販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量、出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。
 ③ 平成14年以前については推計値であり、販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量（推計）を加えた数量、出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量（推計）を加えた数量である。
 なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出した在庫量から精米在庫量（推計）を控除した玄米在庫量である。
 3 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 主食用米等の需要実績の推移

（単位：万トン）

年	x	需要量(y)
8/9	1	943.8
9/10	2	912.9
10/11	3	907.3
11/12	4	885.9
12/13	5	911.5
13/14	6	872.1
14/15	7	894.7
15/16	8	861.6
16/17	9	865.4
17/18	10	851.7
18/19	11	837.5
19/20	12	854.5
20/21	13	823.6
21/22	14	814.1
22/23	15	820.0
23/24	16	813.3
24/25	17	778.5 (速報値)
25/26	18	786.0 (推計値)

（万トン）



(3) 平成25年7月から平成26年6月の主食用米等の需給見通し(推計)

表1 平成24/25年の主食用米等の需給実績(速報)

(単位:万トン)

		主食用米等
24年6月末民間在庫量	A	180
24年産主食用米等生産量	B	821
24/25年備蓄米代替供給量	C	4
24/25年主食用米等供給量計	$D = A + B + C$	1,005
24/25年主食用米等需要量	E	779
25年6月末民間在庫量	$F = D - E$	226

表2 平成25/26年の主食用米等の需給見通し(推計)

(単位:万トン)

		主食用米等
25年6月末民間在庫量	G	226
25年産米生産数量目標	H	791 ※
25/26年主食用米等供給量計	$I = G + H$	1,017
25/26年主食用米等需要量	J	786
26年6月末民間在庫量	$K = I - J$	231

※ 25年産米の生産量は作柄等により上下する。

注: 1 「24/25年」とは、平成24年7月から平成25年6月までの1年間。

2 「25/26年」とは、平成25年7月から平成26年6月までの1年間。

【参 考】

米穀の需給に関する詳細は、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」に掲載しています。

(<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/130726/index.html>)

農林水産省ホーム > 組織・政策 > 審議会 > 食料・農業・農村政策審議会 > 食糧部会 > 食料・農業・農村政策審議会食糧部会 資料 (25年7月26日開催)

VI 備蓄米及びMA米の動向

(1) 国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

① 25年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果

1 入札者数等

	第1回 (1月29日)	第2回 (2月12日)	第3回 (2月26日)	第4回 (3月12日)	第5回 (3月26日)	第6回 (4月9日)	第7回 (4月23日)	第8回 (5月28日)	第9回 (6月25日)
入札参加 資格者数	127	134	145	149	152	154	156	157	158
入札者数	50	54	36	19	17	17	20	25	13
落札者数	13	48	36	19	17	17	20	25	13

2 落札数量等

単位:トン

買入対象米穀 の産地	県別 優先枠	第1回 (1月29日)	第2回 (2月12日)	第3回 (2月26日)	第4回 (3月12日)	第5回 (3月26日)	第6回 (4月9日)	第7回 (4月23日)	第8回 (5月28日)	第9回 (6月25日)	25年産 落札 合計数量
北海道	21,000					10,153		3,905			14,058
青森	21,000	102	825	15,489	1,551	189	170	273	1,429		20,028
岩手	10,000	162	6,900	152	71		67	24	224		7,600
宮城	10,000		140	12	229	6,712	20	197	118		7,428
秋田	30,000		17,680	4,427	1,543	401	368	722	270		25,411
山形	12,500	270	8,232	2,979	1,019						12,500
福島	40,000	152	446	807	279	282	541	558	8,009		11,074
茨城	3,000		34	237	867	195	32	103	10		1,478
栃木	14,730		1,830		9,333						11,163
埼玉	600		520	80							600
千葉	5,000		1,288	486	161	191	216	32	276		2,650
新潟	31,000	714	29,138	98	188	764	4	28	14		30,948
富山	13,000		10,791	1,650		390					12,831
石川	4,000			4,000							4,000
福井	1,300			632							632
長野	2,000		522					51	185		758
岐阜	1,500			654		81					735
静岡	1,200				10	22	20		10		62
愛知	2,000		1,000			400		403			1,803
三重	860	48	48		711						807
滋賀	3,000		730	539	167	93		22	21		1,572
京都	400										
兵庫	1,200		120		140	180	66		48		554
奈良	530								30		30
鳥取	1,320				510	276	534				1,320
島根	250					95					95
岡山	3,100	249	1,128	1,203	137	174	37	1	45		2,974
広島	1,560			300	600		102				1,002
山口	3,000				121	24		106	85		336
徳島	2,000		762	102	56	94	265	90	74		1,443
香川	500			240				75	185		500
愛媛	1,000				261	23	49	3			336
高知	110			30	17	5		10	14		76
福岡	1,300		242	65	65	61	16	5			454
佐賀	900				830						830
長崎	80						80				80
熊本	1,000						300	72	211		583
大分	240			240							240
道府県計		1,697	82,376	34,422	18,866	20,805	2,887	6,680	11,258		178,991
指定なし			210	120	130	495	557	15	674	1,900	4,101
合計		1,697	82,586	34,542	18,996	21,300	3,444	6,695	11,932	1,900	183,092

② 24年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果

1 入札者数等(第8回:最終 平成24年6月19日実施)□

入札参加資格者数	90
入札者数	5
落札者数	5

2 落札数量等(第8回:最終 平成24年6月19日実施)□

単位:トン

買入対象米穀の産地	提示数量	入札数量	落札数量
指定なし	117,021	411	411

(参考) 第1回から第8回の入札における落札状況

単位:トン

買入対象米穀の産地	県別優先枠	第1回 (1月19日)	第2回 (2月7日)	第3回 (2月21日)	第4回 (3月6日)	第5回 (3月19日)	第6回 (4月17日)	第7回 (5月22日)	第8回 (6月19日)	24年産落札合計数量
北海道	7,860		5,003	669	96					5,768
青森	2,400	1,002	192	180	1,014					2,388
岩手	5,680		4,846	258		45				5,149
宮城	5,700			3,952						3,952
秋田	13,230	8,843	420		252	80				9,595
山形	7,690	4,669	569	2,452						7,690
福島	1,320			52						52
茨城	90			90						90
栃木	2,500	1,050		798						1,848
千葉	100		99							99
新潟	10,120	233	9,200		165	16				9,614
富山	7,920		7,920							7,920
石川	1,120	420	120	100	120	50				810
福井	2,430		1,300							1,300
長野	100			93						93
三重	700			699						699
岡山	180	150								150
広島	1,020		448	155						603
山口	3,000		50	723		12				785
香川	590									0
愛媛	420			345						345
福岡	120			120						120
佐賀	190		190							190
熊本	60									0
道県計		16,367	30,357	10,686	1,647	203				59,260
指定なし		2,004	11,571	3,730	3,648	309	1,492	965	411	24,130
合計		18,371	41,928	14,416	5,295	512	1,492	965	411	83,390

※ 岡山産の第1回落札残数量(30トン)、千葉産の第2回落札残数量(1トン)、長野産の第3回落札残数量(7トン)、三重産の第3回落札残数量(1トン)及び青森産の第4回の落札残数量(12トン)については、最小申込数量(50トン)に満たないため、「指定なし」に繰り入れた。

③ 国内産備蓄米の売渡数量

最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

（単位：千トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	—	—	—	—	3
23/24年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」

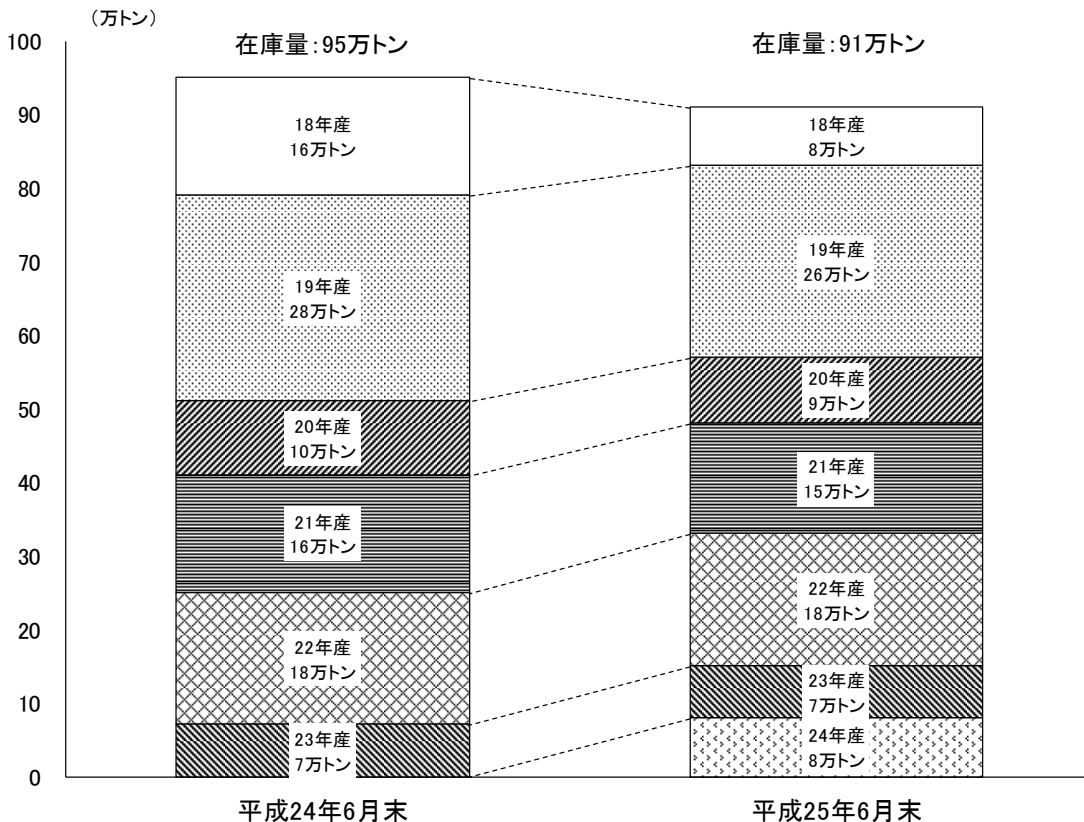
注：1 期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。

2 販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。（平成23年2月まで）

3 19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。

4 平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

④ 政府備蓄米の在庫の状況（平成25年6月末現在）



資料：農林水産省調べ

注：1 うるち玄米の数量である。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 在庫量は、年間需要量の約1.5ヶ月分相当である。

(2) MA米（一般・SBS）の動向

① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71	65
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5	10

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
米国	36	36	36	36	43	36	36	36	36
タイ	19	19	18	25	27	33	35	24	28
中国	10	9	8	8	7	7	2	6	5
オーストラリア	2	2	5	-	-	-	4	7	6
その他	10	11	10	1	0	1	0	4	1
合計	77	77	77	70	77	77	77	77	77
（うち一般輸入）	66	66	66	59	66	66	72	66	66
（うちSBS輸入）※	9	10	10	10	10	10	4	10	10

	平成25年度
米国	-
タイ	1
中国	-
オーストラリア	-
その他	-
合計	1
（うち一般輸入）	1
（うちSBS輸入）※	-

資料：農林水産省「米をめぐる関係資料」
※SBS輸入数量の単位は万実トン。

- 注：1 各年度の輸入契約数量の推移。
2 ラウンドの関係で合計が一致しないことがある。
3 実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 一般輸入米(加工原材料用)の販売状況(平成25年度)

(単位：トン)

販売期間	うるち	もち
平成25年4～6月分	29,700	-
4月分	860	-
5月分	1,373	-
6月分	1,643	-
4～7月分	-	2,685
合 計	33,576	2,685
	36,261	

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS米の販売状況(平成24年度)

(単位：トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回(平成24年9月25日)	一般米	6,280	0	40	0	12,056	0	4,124	0	22,500
	砕精米	428	216	598	244	208	0	806	0	2,500
第2回(平成24年11月6日)	一般米	8,968	558	0	0	2,800	0	10,174	0	22,500
	砕精米	2,400	0	0	0	0	0	100	0	2,500
第3回(平成24年12月18日)	一般米	6,674	414	1,132	72	11,824	0	2,384	0	22,500
	砕精米	248	252	1,300	0	0	0	700	0	2,500
第4回(平成25年2月20日)	一般米	12,154	1,318	364	0	960	0	7,704	0	22,500
	砕精米	956	108	1,000	120	316	0	0	0	2,500
合 計	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成22年度計 (参考)	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450

資料：農林水産省「平成22年度輸入米に係るSBSの結果の概要」、「平成23年度輸入米に係るSBSの結果の概要」、「平成24年度輸入米に係るSBSの結果の概要」